南あわじ市文化財調査報告書　第8集

南あわじ市埋蔵文化財調査年報Ⅵ

2009年度　埋蔵文化財調査

2013 年 3 月

南あわじ市教育委員会

井手田遺跡　２次調査　Ｃ－１～４区

はじめに

南あわじ市では、このたび平成21年度の埋蔵文化財発掘調査の成果概要を『南あわじ市埋蔵文化財発掘調査年報Ⅵ』として刊行する運びとなりました。

全国的には終了しつつある圃場整備事業でありますが、県内でも有数の農業地帯である南あわじ市では現在も続いており、埋蔵文化財行政にとって非常に厳しい状況であります。

しかし、一方で発掘調査によって得られた新たな知見の増加により、国生みの島における南あわじ市の重要性や、他の時代においても非常に興味深い地域であることがますます明らかになりつつあることは、当市の文化財行政にとって喜ばしいことであります。

なにかと暗い話題の続く昨今でありますが、地域の歴史を後世に継承していくことが現代社会に生きる我々の重要な責務と認識しております。

今回刊行いたします年報は、調査概要という不十分な形ではあると思いますが、今後もさらなる努力により地域史の解明と当市の文化財保護と理解に努めていく所存ですので、ご支援賜りますようよろしくお願いします。

最後になりましたが、本書を作成するにあたり、ご指導ご協力いただいた方々に対し、厚くお礼申し上げます。

南あわじ市教育委員会
教育長　岡　田　昌　史

例　　言

1．本書は南あわじ市教育委員会が2009（平成21）年度に実施した、埋蔵文化財調査の記録である。
2．調査は南あわじ市埋蔵文化財調査事務所の山崎裕司・坂口弘貢・定松佳重・的崎薫が担当した。
3．出土遺物の整理作業は、赤井友美・宇治田力・垣脇美奈子・白川裕二・富岡美早子・豊田亜希子・濱本善美・桝本早苗・松下矩之・三宅靖子が行った。
4．本書の編集は定松が行った。執筆・レイアウトについては文末に記している。調査担当者については、調査一覧に記す。
5．各遺跡の発掘調査および本書作成にあたっては、下記の方のご協力とご指導をいただいた。ここに記して深く感謝の意を表する。（敬称略）

森岡秀人

目　　次

巻頭写真図版

はじめに

例　　言

第１章　埋蔵文化財事業の動向 …… 1

第２章　埋蔵文化財調査の成果

第１節　埋蔵文化財調査一覧表および調査位置図 …… 2

第２節　主な埋蔵文化財調査の成果

1　大野遺跡（６次調査） …… 3

2　石田遺跡（２次調査） …… 10

3　井手田遺跡（２次調査） …… 11

4　里原田（１次調査）・平石（２次調査）・カマス（１次調査）遺跡 …… 19

5　国衙廃寺跡 …… 26

第１章　埋蔵文化財事業の動向

平成21年度は分布調査１件、確認調査１件、本発掘調査３件を実施した。分布調査は新規の圃場整備事業である。分布90ha、確認500㎡、本発掘3,213.3㎡、分布を除く調査面積合計が3,713.3㎡となり、ここ数年の調査面積と比較して減少している。

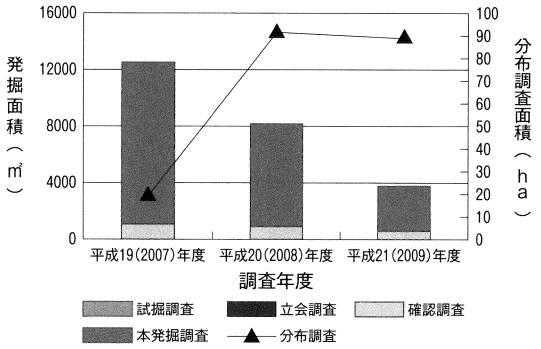
発掘調査は、八幡地区・御陵地区は当年度で調査終了となり、阿万本庄地区、新規に開始された湊里地区を行った。

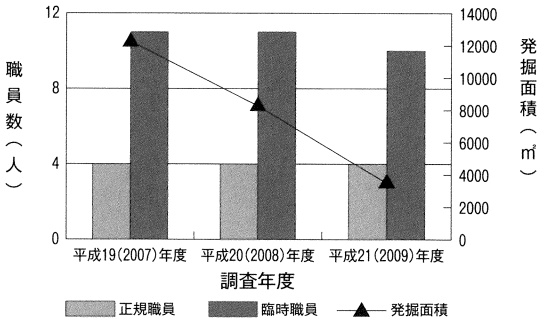
調査成果としては、圃場整備事業は八幡地区（大野遺跡）では縄文時代晩期の土器が出土した。御陵地区（石田遺跡）では遺跡の西限を確認し、阿万本庄地区（井手田遺跡）では飛鳥～鎌倉時代の遺構・遺物を、湊里地区（里原田・カマス・平石遺跡）では弥生・平安時代・中世の遺構・遺物を確認した。

年　　度	分布調査	立会調査	試掘調査	確認調査	本発掘調査	発掘面積	職員数	
							正　規	臨　時
平成19(2007)年度	20.0	62.6	0	1,011.0	11,494.9	12,568.5	4	11
平成20(2008)年度	92.31	0	8.0	885.3	7,292.67	8,185.97	4	11
平成21(2009)年度	90.0	0	0	500.0	3,213.3	3,713.3	4	10

＊単位：分布調査(ha)調査面積(㎡)臨時の職員数はその年度ののべ人数

調査量と職員数の推移１





調査量と職員数の推移２

啓蒙普及活動としては、トライやるウィークで三原中学校（５月18～22日）１名を受け入れたが、新型インフルエンザの影響を受けて延期となり、南淡中学校（６月22～26日）２名と同時に受け入れた。８月４日に南あわじ市内の教員研修として、発掘調査実施中の井手田遺跡で発掘体験と勾玉作りを行った。８月17～19日には市内の小学生対象に勾玉作りを実施した。

トライやる作業中

また、発掘調査速報展－平成20年度調査－を市内４ケ所の施設に巡回展示した。埋蔵文化財調査事務所では展示スペースがないため教育委員会が所在する西淡公民館で、年３回の展示物入れ替えを目標に不定期の埋蔵文化財ミニ展示を行っている。第３回は成相川の近くから多くの土器が出土した幡多遺跡下内田地区、第４回は小さな島に13基の古墳が造営された沖ノ島古墳群、第５回は「正月丸」と刻書された土器が出土した幡多遺跡野水Ｅ地区の出土遺物などを展示した。

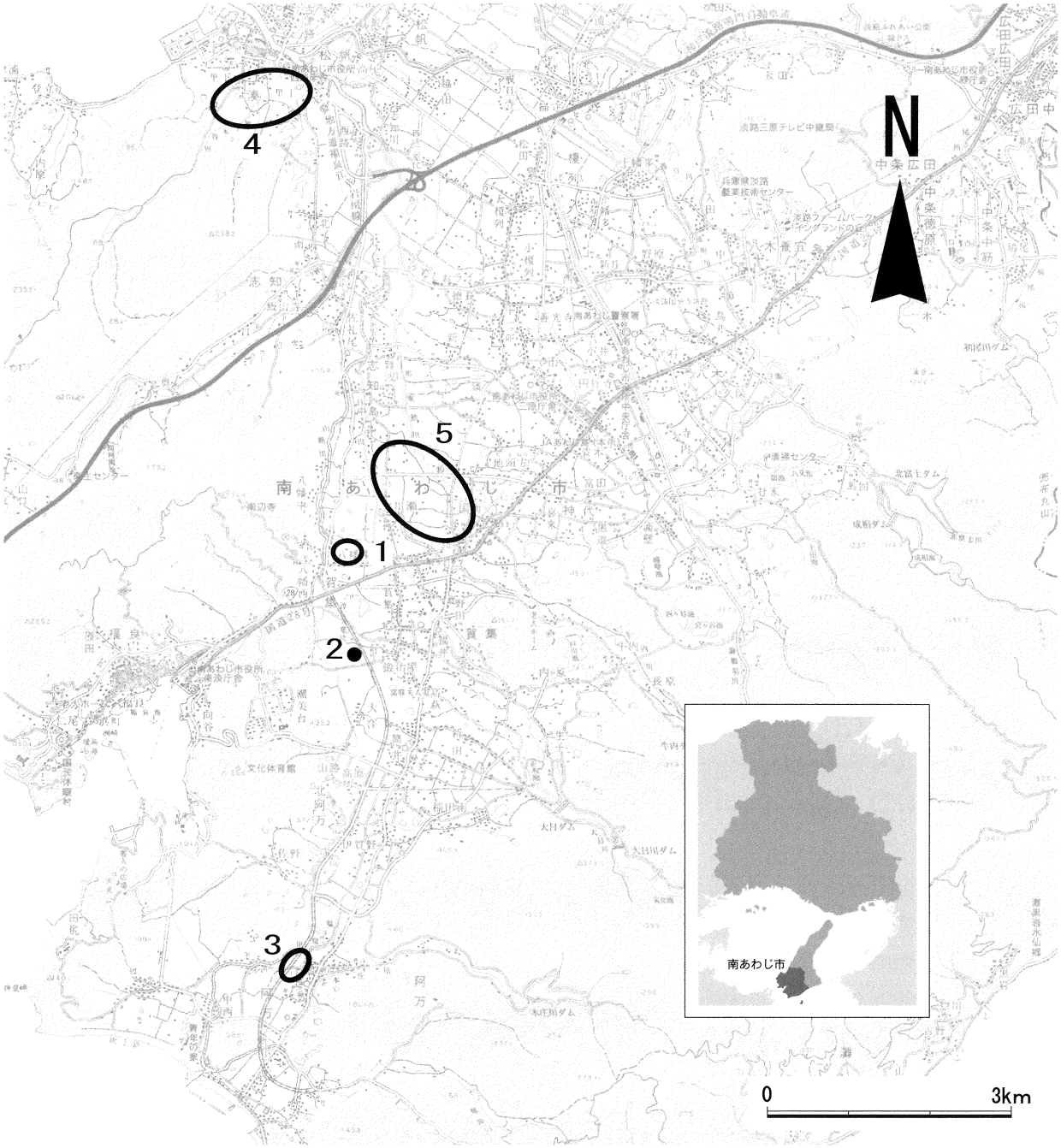
教員研修

第２章　埋蔵文化財調査の成果

第１節　埋蔵文化財調査一覧表および調査位置図

No.	事　業　名	内　容	面　積	担当者	遺 跡 名	所在地1	所在地2	調査期間	調　査　成　果
1	基盤整備促進事業(八幡地区)	本発掘	896.8㎡	坂口	大野	賀集	八幡南	H21.6.22～9.18	縄文・奈良時代、中世の遺構・遺物確認
2	経営体育成基盤整備事業(御陵Ⅰ期地区第５工区)	本発掘	93.5㎡	的崎	石田	賀集	鍛治屋	H21.7.13～7.15	奈良時代の溝を確認
3	経営体育成基盤整備事業(阿万本庄地区)	本発掘	2,223㎡	山崎	井手田	阿万	上町	H21.7.30～11.26	飛鳥～鎌倉時代の遺構・遺物確認
4	経営体育成基盤整備事業(湊里地区)	確認	500㎡	定松・的崎	里原田・平石・カマス	湊・湊里	東・里下	H21.9.1～9・10.19～11.6	弥生～中世の遺構・遺物確認
5	経営体育成基盤整備事業(国衙地区)	分布	90ha	坂口	国衙廃寺跡	神代	国衙	H22.1.12～2.19	瓦など古代と思われる遺物を中心に採集

調査一覧表

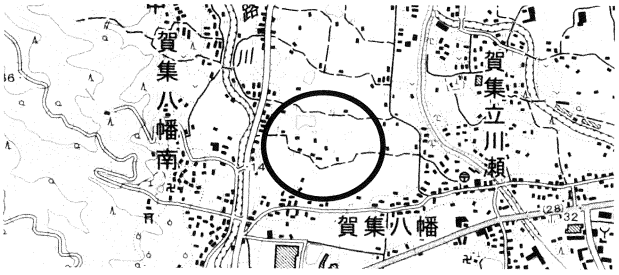


調査位置図

第２節　主な埋蔵文化財調査の成果

１　大野（おおの）遺跡　－６次調査－

所 在 地　　賀集八幡南字梅原外
事 業 名　　基盤整備促進事業
担 当 者　　坂口弘貢
種　　別　　本発掘調査
調査期間　　平成21年６月22日～９月18日
調査面積　　896.8㎡

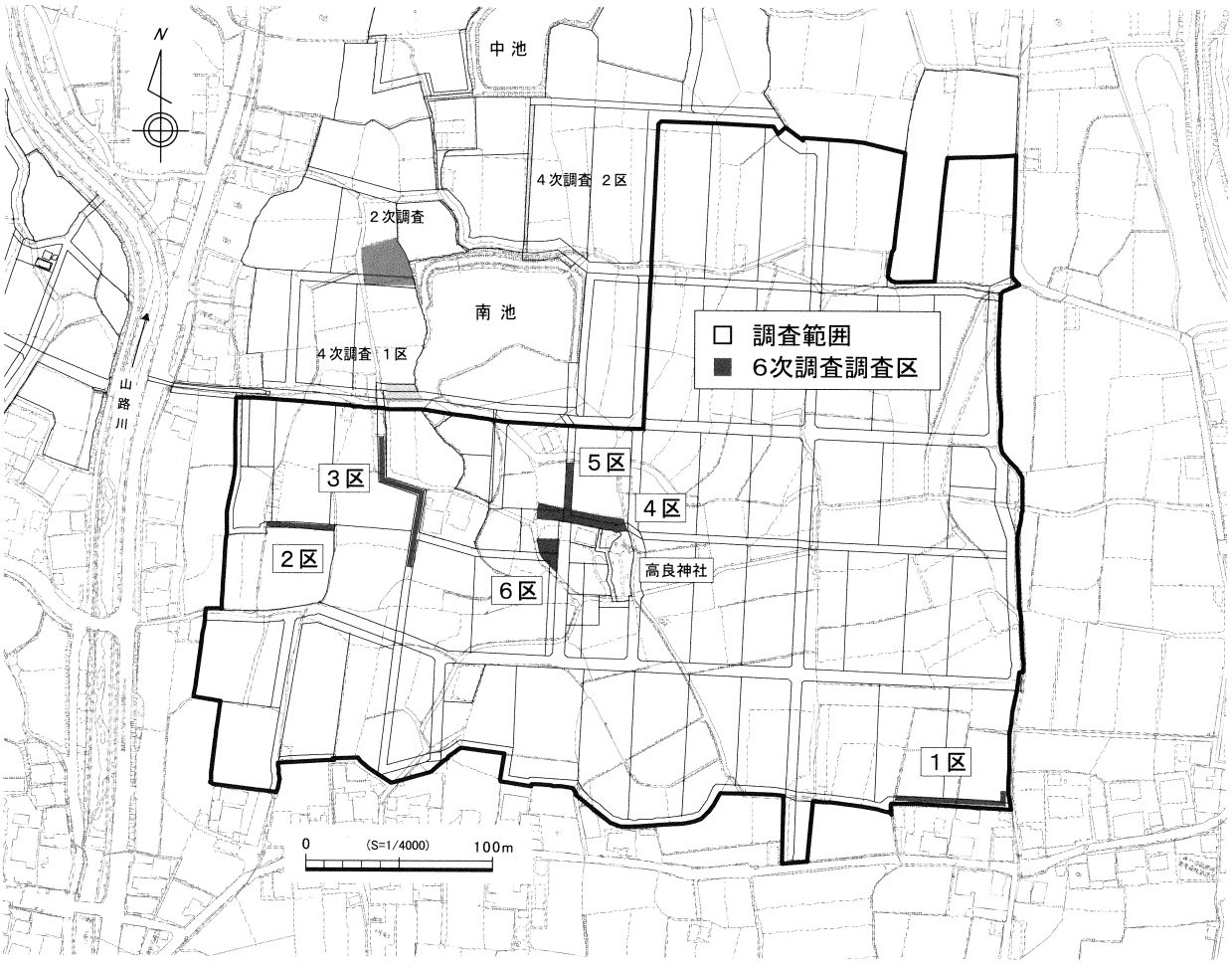


調査の位置

１　調査内容

本調査は、賀集八幡南地区で計画中の団体営圃場整備事業に伴う本発掘調査である。

調査地は、三原平野西部の大日川支流である山路川中流右岸域、標高14.33～19.28mを測る水田からなる。調査は、工事により地下の遺跡が破壊される部分６ヶ所（１～６区）について重機・人力併用で進めていった。以下調査区の概要を記す。



調査区設定図

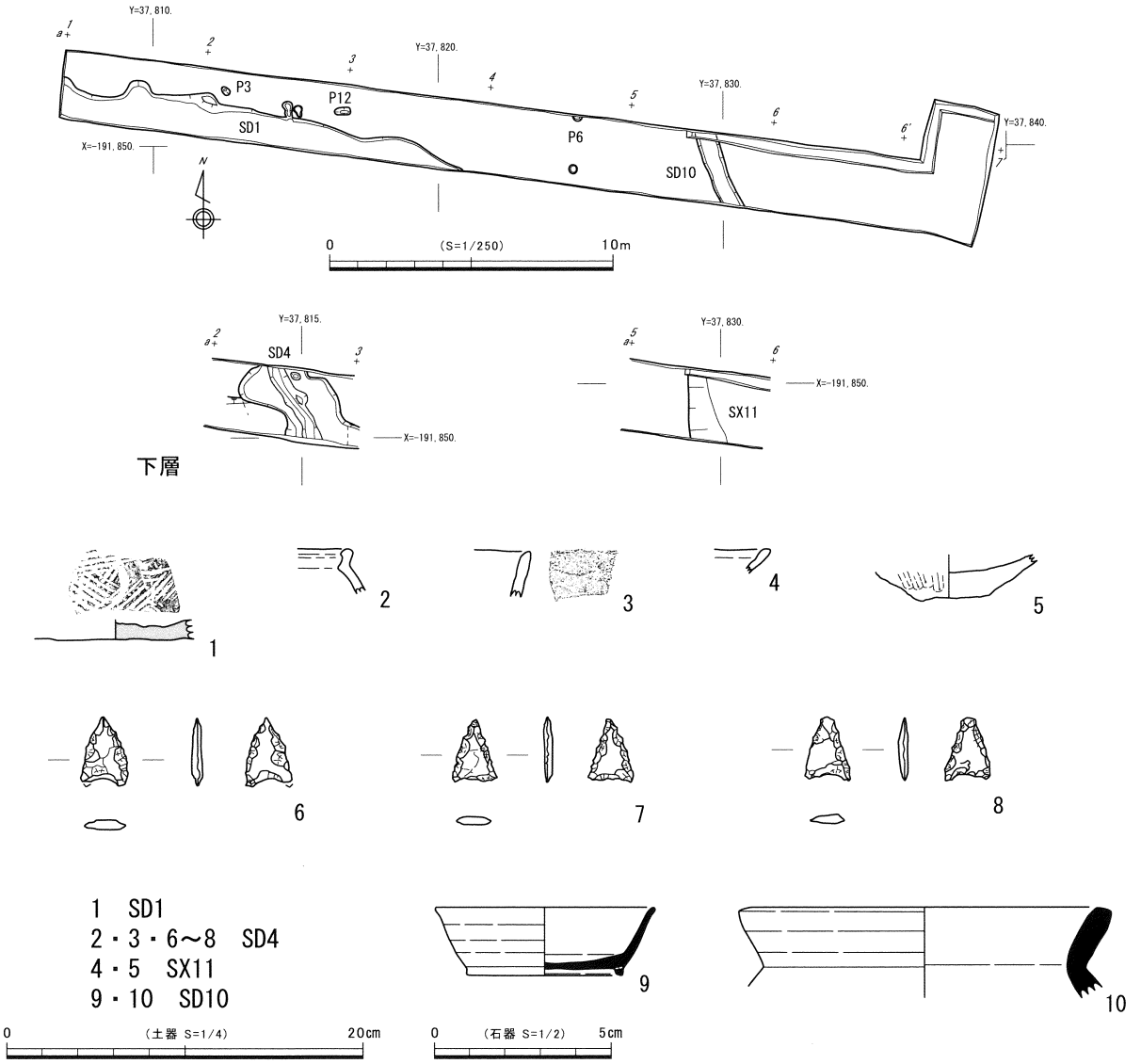
【１区】

調査地の南東端に位置する幅2.5m、長さ約34mの逆Ｌ字型の調査区である。確認した遺構は生活に関係するものは非常に少なく、溝などが主体となる。

SD１　調査区南西部にある東西方向にのびる溝である。２a～３a区でSD４と切合い、SD１が新しくSD４が古い。埋土が細砂となることから流水していたものと思われる。出土遺物には備前焼と思われるスリ鉢の底部（１）や細片化した土師器片が出土しており、中世でも後半以降の時期が想定される。

SD４　２～３区にある南北方向の溝である。南半部がSD１に切られた形となり、中央部が一段低くなる。遺構からは縄文土器（２・３）や石鏃（６～８）・サヌカイト片が出土している。また周辺の小穴（Ｐ３・６・12）からも縄文土器と思われる破片が出土しており、周辺に縄文時代の集落が存在することが推測される。

SD10　５区にある南北方向にのびる幅約70cm、深さ27cmの溝である。SX11と切合い、SD10が新しくSX11が古い。遺物は須恵器（９・10）・製塩土器・土師器が出土しており、奈良時代末～平安時代初め頃と思われる。



１区　平面図・出土遺物

SX11　調査区東半部にある。５ａ区のSD10付近からベースの土壌が徐々に降下し、谷地形を形成する。７ｂ区北端が最も深く約50cmを測る。埋土は黒色をなし、非常に粘性が強く湧水が多いことから湿地状を成していたものと思われる。遺物は、縄文土器（４・５）やサヌカイト片がわずかに出土している。

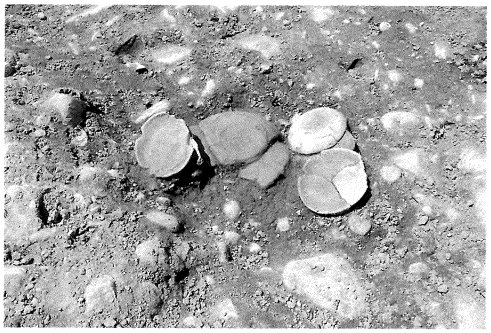
【２区】

調査地西端に位置する幅2.5m、長さ約36mの東西方向の調査区である。確認した遺構は溝が中心で、調査区中央に柱穴状の遺構がわずかに分布する。

SD１　調査区東端に位置する南北方向の溝で幅40～90cmを測る。出土遺物には土師器皿（11）・瓦器椀（12）がある。12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。

SD８　調査区中央を東西にのびる溝で、長さ約21.5mを測る。西側が狭く東に向かって広くなると同時に深くなる。溝が深くなる東端部は、検出面からの深さが約50cmとなり、南北方向に方向が変わる。中層から下層にかけては流水したような状況である。遺物は土師器皿（13～16）・小皿（20）や土師器鍋（17～19）、瓦器椀（21）、須恵器こね鉢（22・23）、青磁碗（24・25）、瓦質鍋などが出土している。時期的には13世紀～15世紀後半頃の比較的長い時期幅を有すると思われる。

SD24　調査区西端に位置する幅40～80cmのＬ字状の溝である。溝東端で土師器皿１個体（26）と小皿４個体（27～30）が出土した。出土した土師器５個体はほぼ完形であることから、意図的に置かれたものと思われる。比較的器高が高く14世紀中頃～後半頃が想定される。



２区　SD24遺物出土状況（北東より）

SB１　大半が調査区北側に想定されるため全体規模は不明であるが、東西２間分の柱穴（Ｐ17・18・21）を確認した。柱間は1.6～1.7mを測る。出土遺物は図化できないが土師器片があり、中世頃が想定される。

【３区】

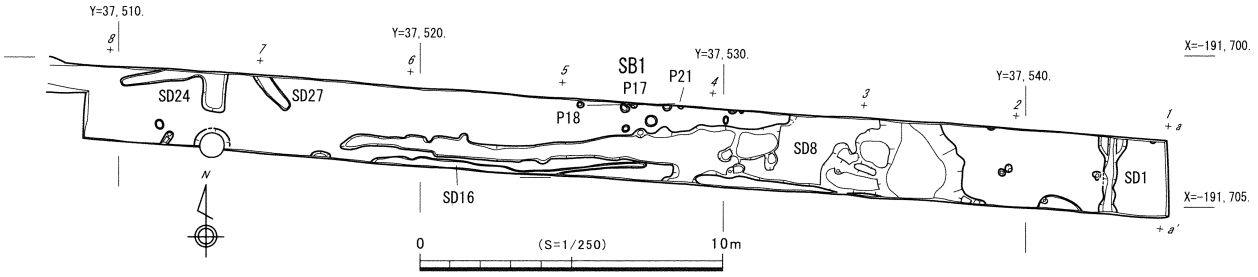
南池の南に位置する幅2.0～2.5m、長さ約81mの調査区である。東に向かって傾斜しており、調査区東が谷地形を成し、遺構分布の中心からやや外れた地点に位置するものと思われる。確認した遺構には、生活に関連する遺構は少なく、溝や落込みが中心となる。

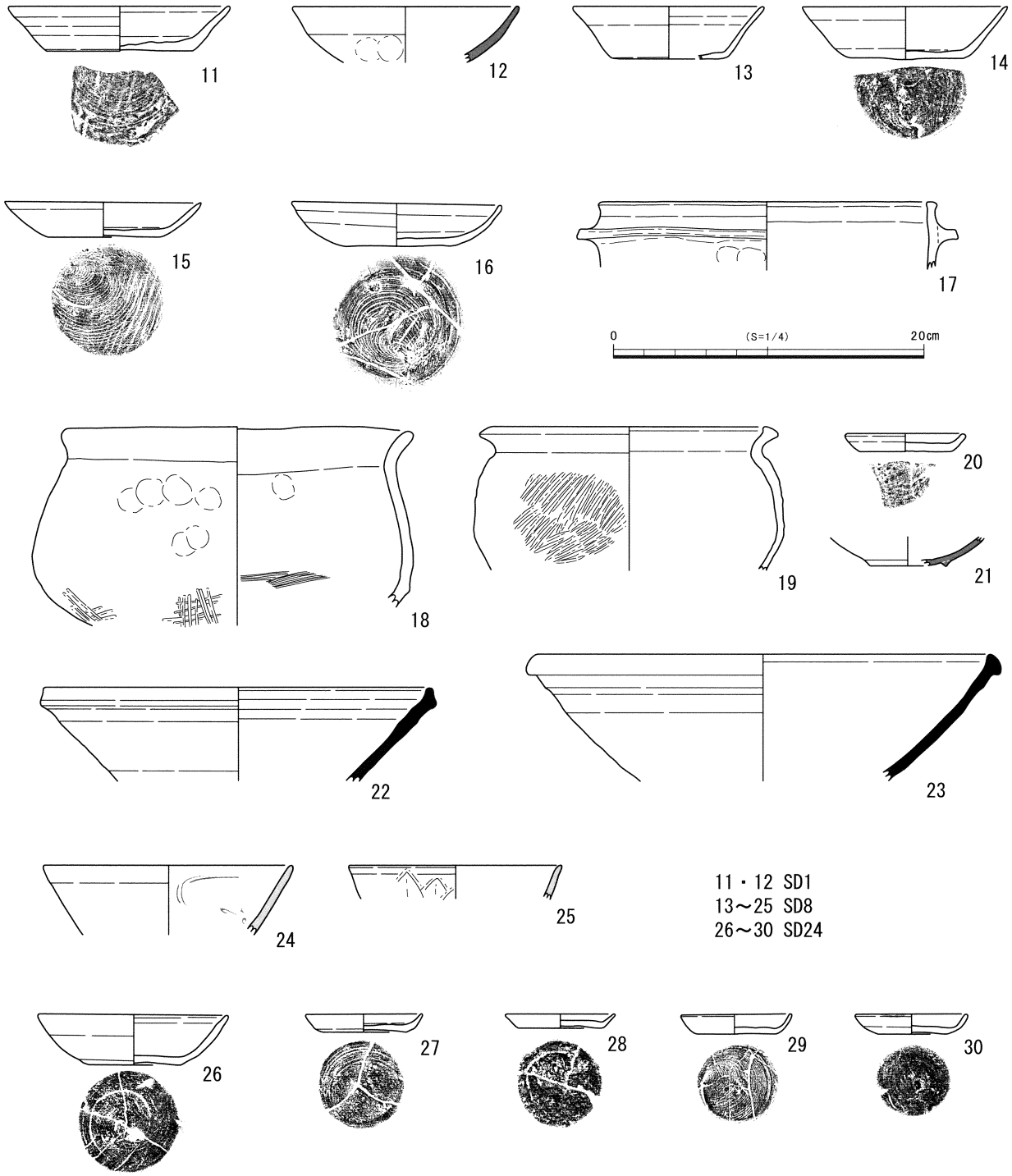
SD17　11ａ～14ａ区東半部に位置する南北方向にのびる幅約１m、長さ約12mの溝状の遺構である。出土遺物に染付があり、近世以降と考えられる。

SX14　SD17の下層で確認した。ベースとなる黄色系の粘質土層が11ａ～12ａ区周辺で降下し落込みを形成する。出土遺物は西方から流れこんできたような形で須恵器（31・32・34）・土師器（35・36）・製塩土器（37・38）などが出土している。落込み内は凹凸があり、北方の窪み状の遺構から出土した土師器坏（35）は畿内産と思われる。

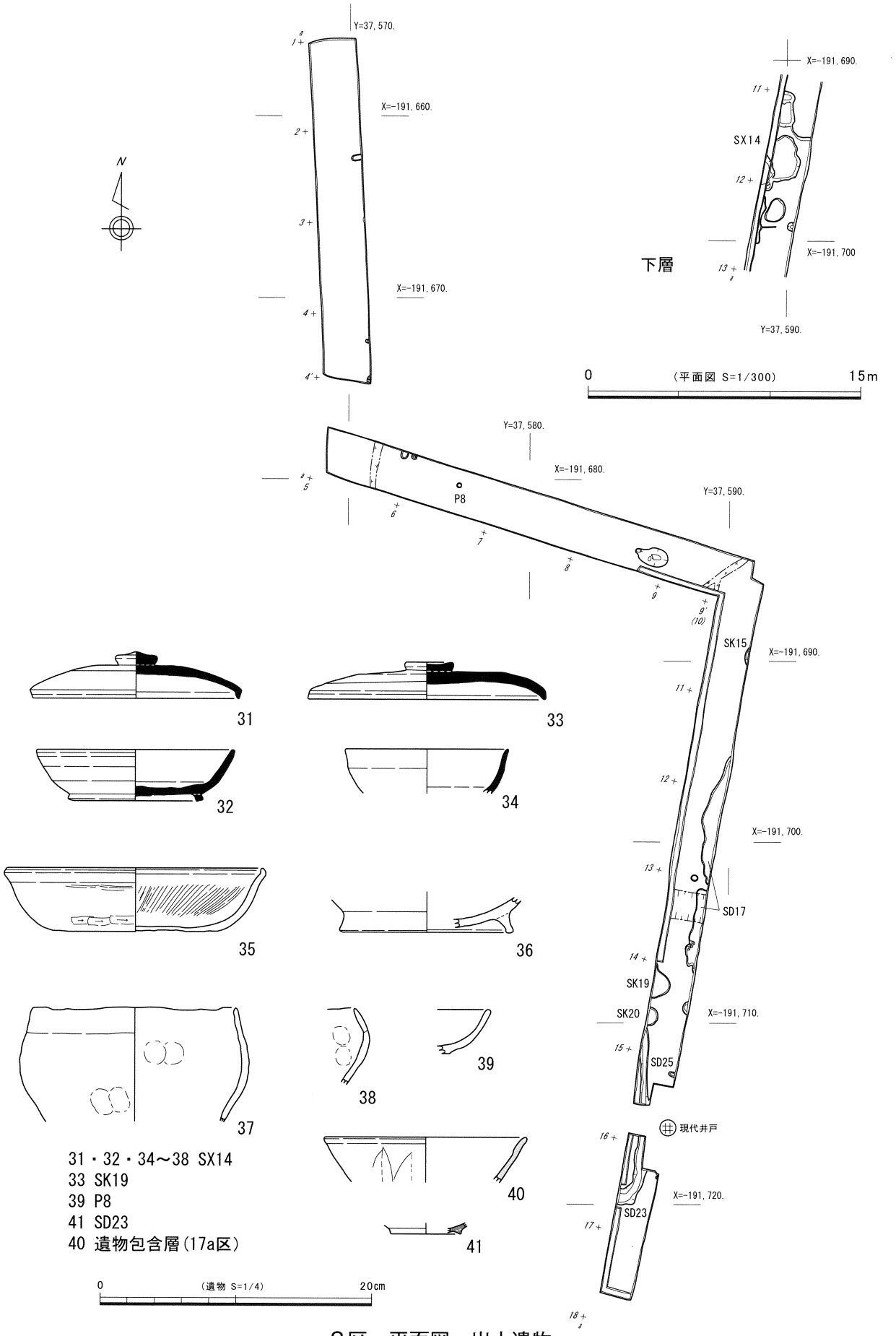
SK19・20　14ａ区に位置する浅い土坑である。いずれも調査区西側にのびる。SK19からは須恵器坏蓋（33）が出土しており、時期は奈良時代前半頃と考えられる。SK20からの出土遺物はないが、埋土がSK19の色調と同様であることから同時代の遺構と思われる。

SD23・25　調査区南部に位置する幅約0.3～1.0mの溝である。中間地点に現代の井戸があり、湧水のため調査区が分断された形となるが、両者は同一の遺構と思われる。溝は南北方向にのびるが、南端で西に方向を変える。出土遺物は非常に少ないが、瓦器椀（41）や土師器片が出土しており、


Y=37,510.
Y=37,520.
Y=37,530.
Y=37,540.
X=-191,700.
X=-191,705.
SB1
P17
P21
P18
SD24
SD27
SD8
SD16
SD1
N
0
(S=1/250)
10m


11
12
13
14
15
16
17
0
(S=1/4)
20cm
18
19
20
21
22
23
24
25
11・12 SD1
13～25 SD8
26～30 SD24
26
27
28
29
30

２区　平面図・出土遺物


Y=37,570.
X=-191,660.
X=-191,670.
N
下層
X=-191,690.
SX14
X=-191,700
Y=37,590.
0
(平面図 S=1/300)
15m
Y=37,580.
X=-191,680.
P8
Y=37,590.
SK15
X=-191,690.
X=-191,700.
SD17
SK19
SK20
X=-191,710.
SD25
現代井戸
X=-191,720.
SD23
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
31・32・34～38 SX14
33 SK19
39 P8
41 SD23
40 遺物包含層(17a区)
0
(遺物 S=1/4)
20cm

3区　平面図・出土遺物

時期は中世頃と考えられる。

【４区】

調査地中央部の高良（こうら）神社北側に位置する調査区である。長さ約44m、最大幅８mの東西に細長い調査区である。遺構は耕作土下約10cmの黄色系粘質土上面で確認した。

SK11　３a区に位置する幅1.28m、最大の深さ約35cmの土坑である。遺物は須恵器が出土している。

SK12　SK11の西側に隣接する幅85cm、最大の深さ約35cmの土坑である。遺物は須恵器広口壷（45）が出土しており、時期は奈良時代頃と考えられる。

SX16　調査区の東方に位置する3.0～3.5mあまりの不定形な遺構である。奈良時代の遺構を確認した黄色系粘質土の土質・色調が部分的に異なる部分があり、プランや深度は明確でない。遺物は縄文土器（42）やサヌカイト片がわずかに出土した。北側に位置するSX13・14も同じような遺構である。

【５区】

４区の中央から北側にのびる幅2.4m、長さ約25mの排水路に伴う調査区である。調査区の南部では、耕作土下約10cmでベースの黄色系粘質土が堆積し、北方向に向かうにつれ降下し、耕作土下約35cmに位置する。

調査区北半部を中心に東西方向の溝状の遺構などを確認した。いずれの遺構も遺物が非常に少なく時期は不明。

【６区】

４区の南、高良神社の西に位置する東西12m、南北17mの三角形の調査区である。土坑や溝などを確認したが、４・５区同様に遺構数・遺物量共に非常に少ない。

SK10　調査区北東部に位置する東西70cm、南北45cm、深さ35cmの土坑である。遺物は須恵器片（46）が出土している。埋土の色調が５区SK11・12と似ていることから、時期は奈良時代頃と思われる。

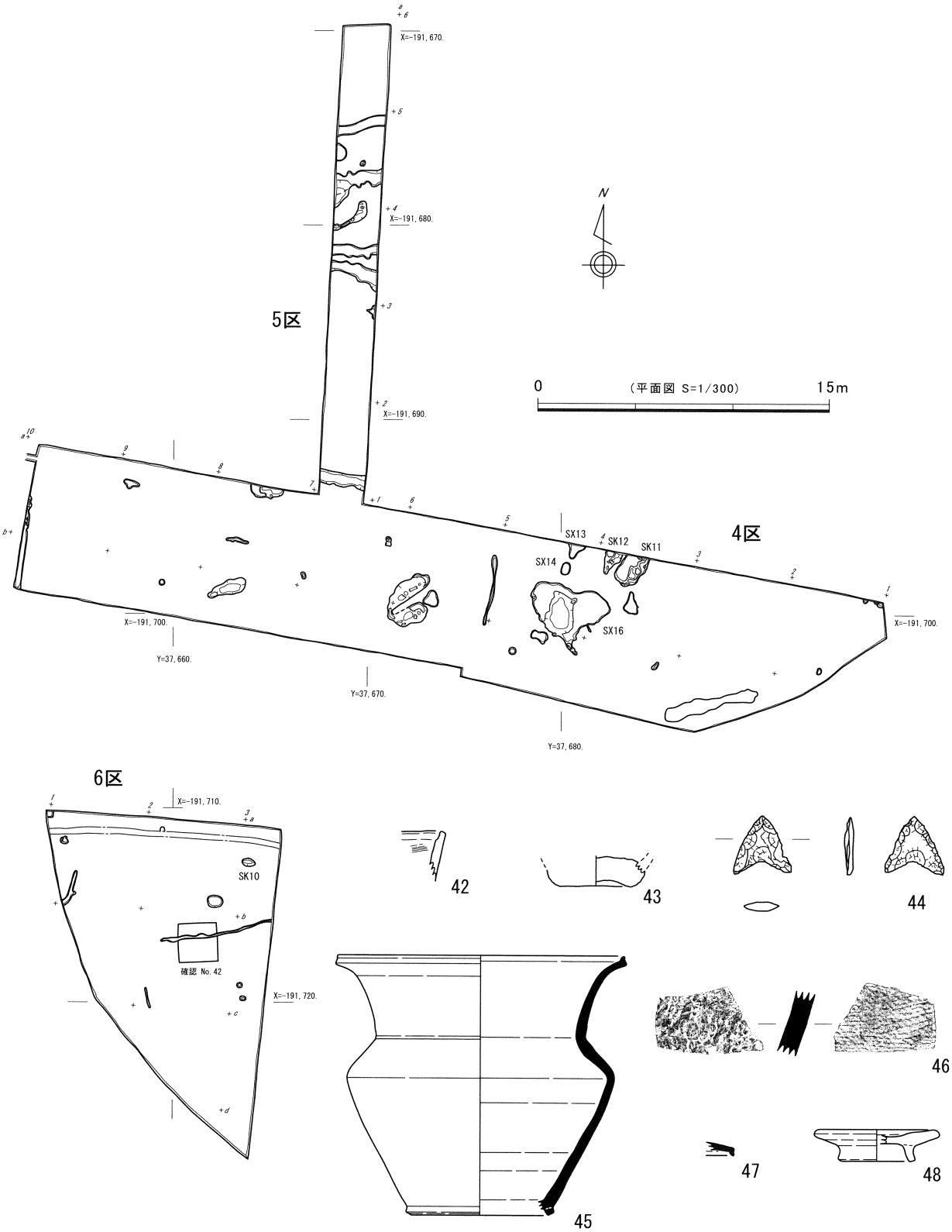
２　まとめ

本調査により、縄文時代・奈良時代・中世を中心とする遺構・遺物を確認することができた。しかし、調査区の大半が水路に伴う狭い範囲であることや、現在の圃場の境界付近であるため具体的な状況は把握が困難な部分が多い。

縄文時代については、調査地南東部の１区と中央部の４区に分布する。遺物は全体的に小さな破片であるが、晩期（滋賀里Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ式）頃に位置付けできる。遺物量は１区周辺がやや多い傾向にあるのと幾つか遺構が分布することから、周辺に縄文時代の集落が存在する可能性が高い。

奈良時代は、３区西側周辺を中心に遺構が分布し、時期的に前半頃が中心になると思われる。これまでの２～４次調査成果を考慮すれば、中池から３区の南部、南北約250mの範囲に遺構が広がると思われる。４・６区でも遺構が確認されているが、分布は少なく遺跡の縁辺部のような状況である。また面的に調査が実施された部分は少ないものの、２次・４次（１区）で円面硯や本調査の３区（SX14）から畿内産と思われる土師器が出土していることが注意される。

最後に中世であるが、調査地西部の２・３区にかけて遺構が分布し、２次調査の成果を合わせて考えると北側は南池の西側周辺まで遺構が広がると考えられる。　（坂口）

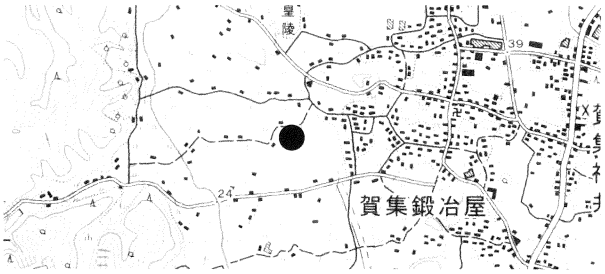


42 4区SX16
43 4区SX13
44 4区遺物包含層(2a区)
45 4区SK12
46 6区SK10
47 6区遺物包含層(3a区)
48 6区遺物包含層(1b区)

4・5・6区　平面図・出土遺物

2　石田（いしだ）遺跡　－２次調査－

所 在 地　　賀集鍛冶屋字石田
事 業 名　　経営体育成基盤整備事業
担 当 者　　的崎薫
種　　別　　本発掘調査
調査期間　　平成21年７月13日～７月15日
調査面積　　93.5㎡

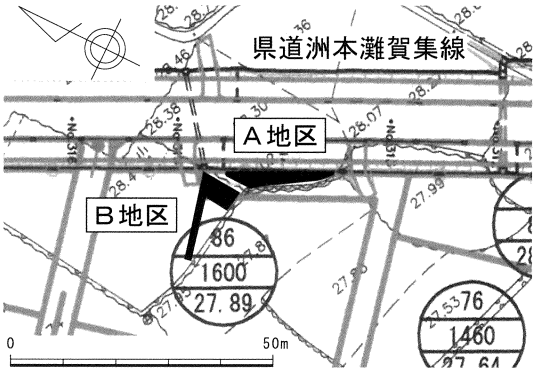


調査の位置

1　調査内容

本調査対象地は淡路島最大の平野である三原平野の南西端に位置し、標高約28mの緩斜面に立地する田園地帯である。調査地東側に接する県道洲本灘賀集線の建設時には、県教育委員会の本発掘調査で奈良時代の建物などが確認されている。

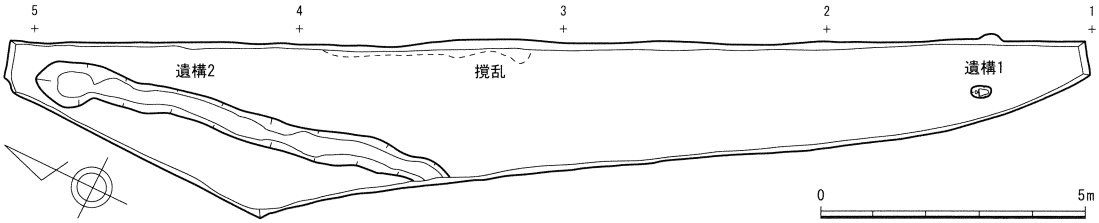
上記事業に伴って行った確認調査と県教委の調査から判断した結果、遺構は希薄ながらも事業対象地に広がっている可能性があるとして、遺跡に影響が及ぶ範囲の記録保存を行うこととなった。調査はＡ・Ｂ地区に分けて行った。



調査区設定図

【Ａ地区】

43.7㎡の調査を行った。小土坑（遺構１）と溝（遺構２）を検出した。遺構１は遺物が出土していないため時代は不明である。遺構２は幅約50cmで深さは約10～20cmを測り、県道の調査でも確認されていた溝の続きである。ここからは奈良時代と考えられる土師器や須恵器・製塩土器の破片が出土している。



Ａ地区

【Ｂ地区】

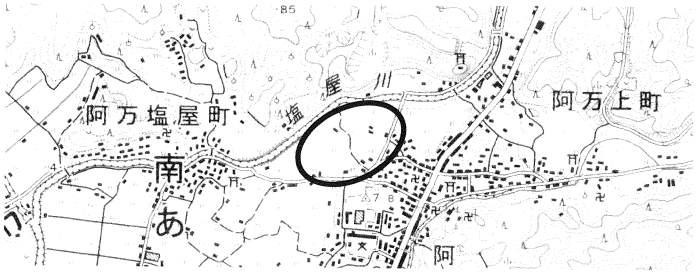
Ａ地区の西側に接する調査区で、49.8㎡を調査したが、遺構は確認できなかった。調査区全域において、浅い地点で地山となる礫層を確認している。

2　まとめ

調査の結果、今回の調査区は石田遺跡の西限に位置しているため、遺構が希薄であり、確認できた遺構は小土坑と奈良時代の溝だけであった。遺跡の中心は県道を挟んだ東側にあると考えられ、今後はこの周辺での開発に注意を要する。　（的崎）

3　井手田遺跡　－２次調査－

所 在 地　　阿万上町字井手田外
事 業 名　　経営体育成基盤整備事業
担 当 者　　山崎裕司
種　　別　　本発掘調査
調査期間　　平成21年７月30日～11月26日
調査面積　　約2,223㎡



調査の位置

1　調査内容

当遺跡は南あわじ市の南端、塩屋川によって形成された標高１～14mの低平な沖積地から扇状地末端に位置する。調査地の北東方向には中世の山城と伝えられる郷殿城跡、東方向には弥生時代後期～終末期・中世の河内遺跡、北西～西方向には平安時代末と伝えられる塩屋古城跡や弥生～平安時代の初田遺跡などが分布する。また南西方向には条里型地割の名残と思われる土地区画が見られる。

平成16年度の当事業に伴う分布調査により遺跡の存在が明らかになり、平成18年度には兵庫県教育委員会によって主要地方道洲本灘賀集線（阿万バイパス）道路改良事業に伴う確認・本発掘調査が行われ、弥生時代～中世の複合遺跡であることが明らかになった。平成20年度に当事業に伴う確認調査を行い、その結果に基づき、Ａ－１～３・Ｃ－１～４地区で本発掘調査を行うことになった。

【Ａ－１～３地区】468㎡

旧塩屋川によって形成された中州上に位置すると推定される調査区で、上述の県教委本発掘調査区東側に隣接する。Ａ－１地区を中心に飛鳥～鎌倉時代の遺構が検出された。

溝30　幅1.5～1.8m、最深約0.3mを測る。溝上層部から飛鳥時代頃と思われる須恵器の蓋坏（**8**～**10**）や土師器の長胴甕（**1**）等が出土しており、埋没した時期を示すものと思われる。

溝138　幅1.4～1.7m、最深約0.4mを測り、断面逆台形を呈する溝である。下層から奈良時代後半頃と思われる坏Ｂ身（**14**）が出土している。県教委の調査で塩屋川旧河道と接続することがわかっている。

建物１・２・６　ほぼ同方位（Ｎ２～５°Ｗ）を示す。建物１は東西１間以上、南北２間以上の側柱建物、建物２は東西、南北共１間以上、建物６は東西１間以上、南北２間以上の側柱建物である。図化できる出土遺物が無く、時期不明である。

建物３　柱穴から坏蓋片（**16**）が出土しており、奈良時代の建物と思われる。東西２間、南北２間以上の側柱建物と思われる。Ｎ20°Ｗを示す。

建物４・５　同方位（Ｎ15°Ｅ）を示し、東側の柱筋が一直線に並ぶことから、前後して建てられた可能性が高い。ただし前後関係は不明である。建物４は東西１間以上、南北３間の総柱建物、建物５は東西１間以上、南北２間で北側に庇が付属する側柱建物と思われる。図化できる出土遺物は無かったが、建物４が総柱で、県教委の調査で鎌倉時代の建物が多数検出されていることから、鎌倉時代と思われる。

【Ｃ－１～４地区】1,755㎡

塩屋川の自然堤防上に位置する調査区である。Ｃ－１地区で奈良時代、Ｃ－２～４地区で鎌倉時代を中心とする遺構が検出され、特にＣ－２地区からＣ－３地区南部にかけて遺構が集中していた。

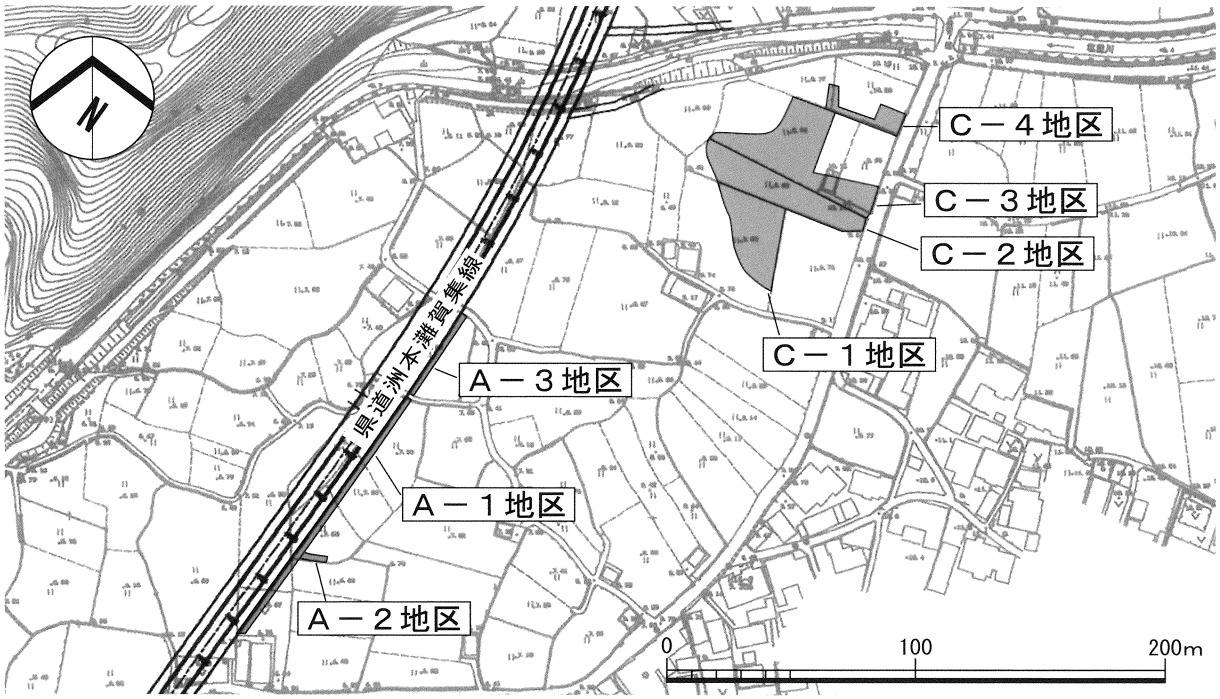
建物１　N25°Wを示し、梁行２×桁行２間の側柱建物である。隣接する窪地状遺構41には奈良時代前半頃と思われる土器だまりが形成されていたことから、奈良時代の建物ではないかと思われる。また隣接する土坑79も同時期と思われ、埋土に炭や焼土が含まれ、わずかだが骨片も出土している。
建物２・３　ほぼ同方位（N18°W）を示す中世の建物群である。建物２は梁行２×桁行３間の側柱建物、建物３が梁行１×桁行３ないし４間の建物と思われる。
建物４・５・９　建物４がN５°Eを示し、建物５・９も同じような方位を示す。中世の同時期の建物群と推定される。建物４が最も規模が大きく、集落の中心的な建物と考えられる。建物４は構造が複雑であるが、梁行２×桁行３間の総柱建物が基本と思われ、南側に庇、北側には庇と孫庇が付属する。建物５は梁行２×桁行２間の総柱建物、建物９は梁行１×桁行３間の建物と思われる。
建物６・７・８　建物６がN12°Eを示し、建物７・８も同じような方位を示す。中世の同時期の建物群と推定される。建物６は梁行２×桁行３間の総柱建物で、建物７は柱通りが悪いが梁行２×桁行３間の側柱建物とした。建物８は梁行１×桁行３間の建物と思われる。

２　まとめ

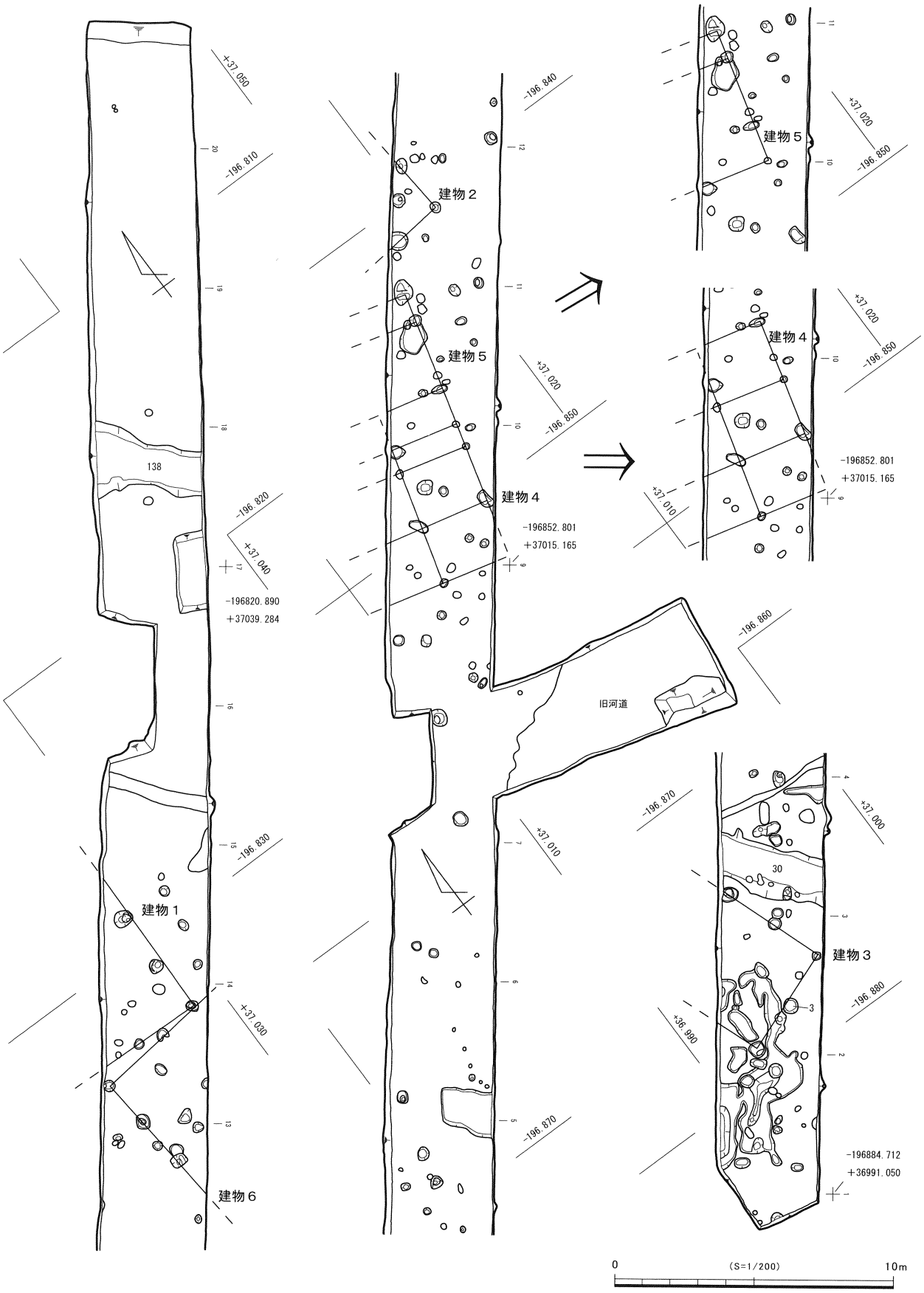
Ａ－１～３地区では飛鳥時代や奈良時代頃の溝、奈良時代や鎌倉時代頃の掘立柱建物が検出された。Ａ－２地区では旧河道跡が検出されていることから、遺跡範囲は東側にはあまり広がらないと推測される。

Ｃ－１～４地区では奈良時代頃の建物や土器だまり、中世の建物群が検出された。中世の建物群は方位から①建物２・３、②建物４・５・９、③建物６・７・８の３群に分類できる。柱穴出土遺物では②が最も新しく、瓦器椀の26や37は外面にミガキが見られず、高台が非常に退化していることから、13世紀後半頃と思われる。③は建物の方位や構成などが②に比較的似ており、前後関係にあると思われる。①・③出土の瓦器椀について、②より古いものしか確認できなかったことから、①→③→②か①＝③→②の順で推移すると思われる。前者であれば①は平安時代末に遡る可能性も考えられる。

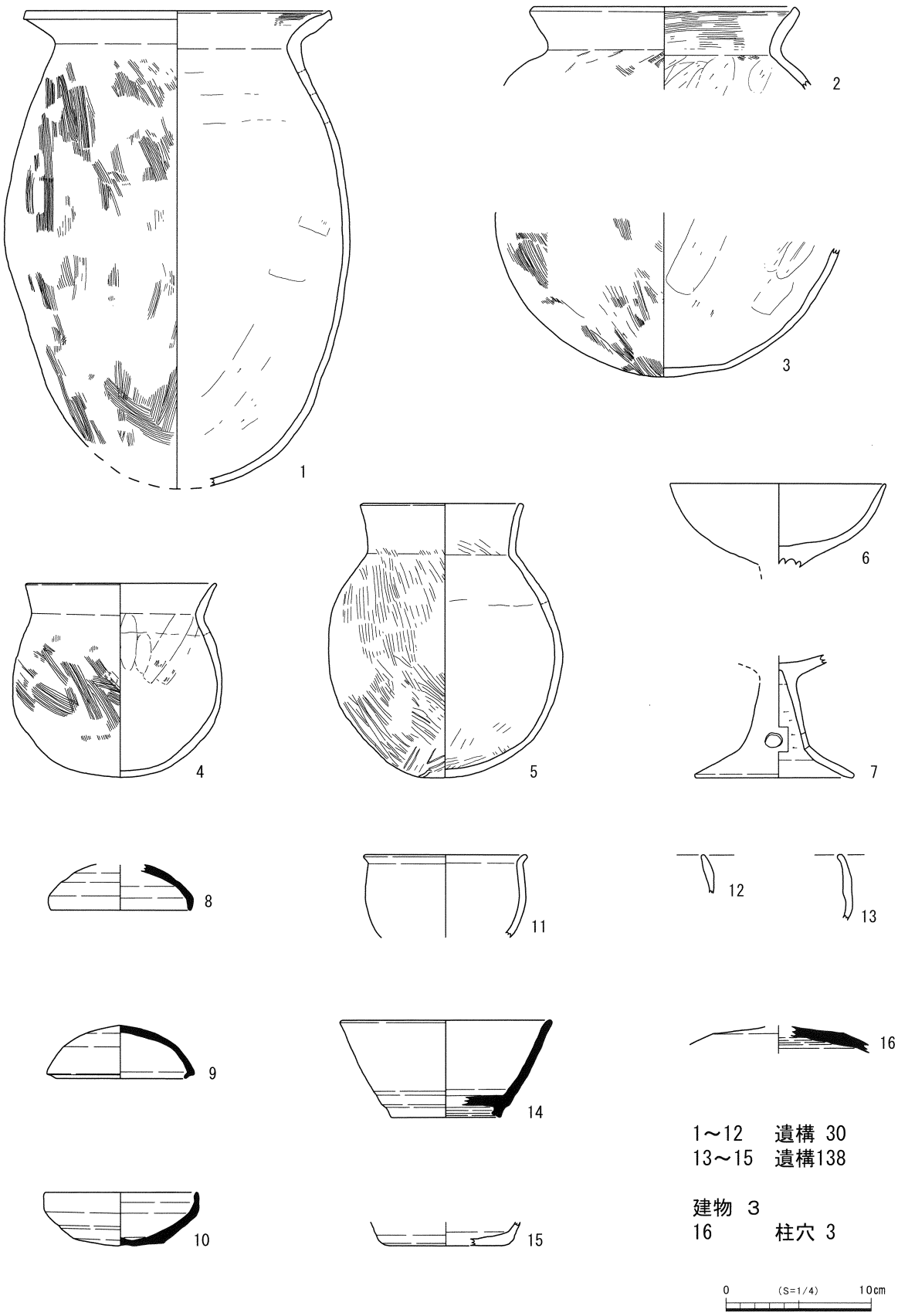
（山崎）



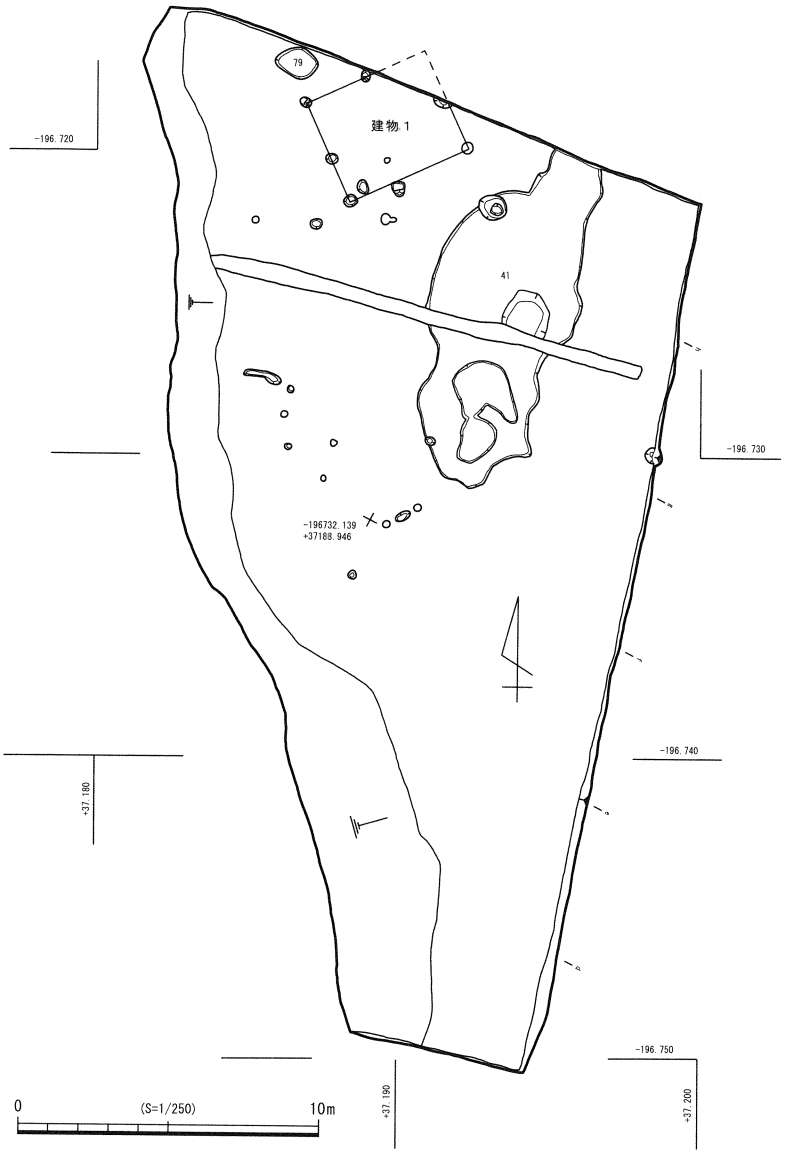
調査区設定図


建物1
建物2
建物3
建物4
建物5
建物6
旧河道
138
30
-196.810
-196.820
-196.830
-196.840
-196.850
-196.860
-196.870
-196.880
+37.050
+37.040
+37.030
+37.020
+37.010
+37.000
+36.990
-196820.890
+37039.284
-196852.801
+37015.165
-196884.712
+36991.050
0
(S=1/200)
10m

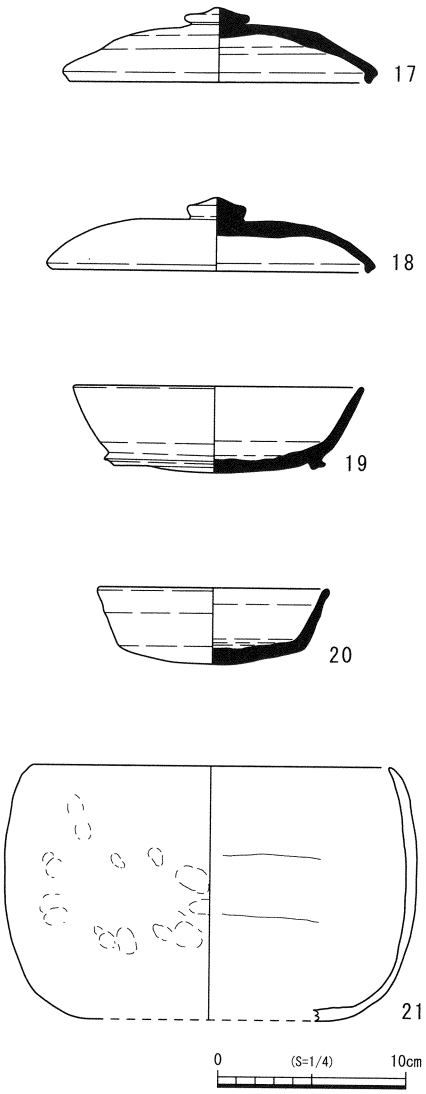
A－1・2地区　平面図


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
1～12　遺構 30
13～15　遺構138
建物 3
16　柱穴 3
0
(S=1/4)
10cm

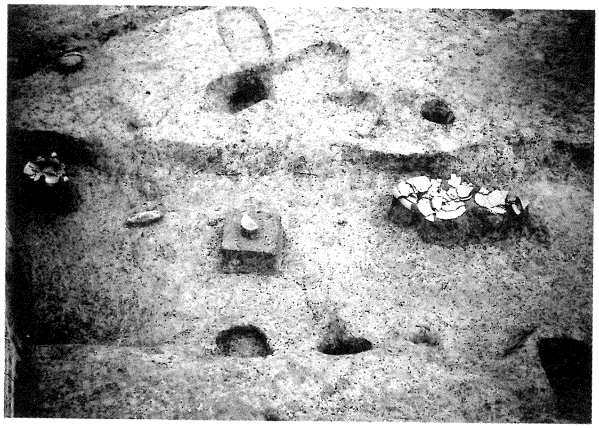
A－1・2地区　出土遺物



C－1地区　平面図



C－1地区　遺構41　出土遺物

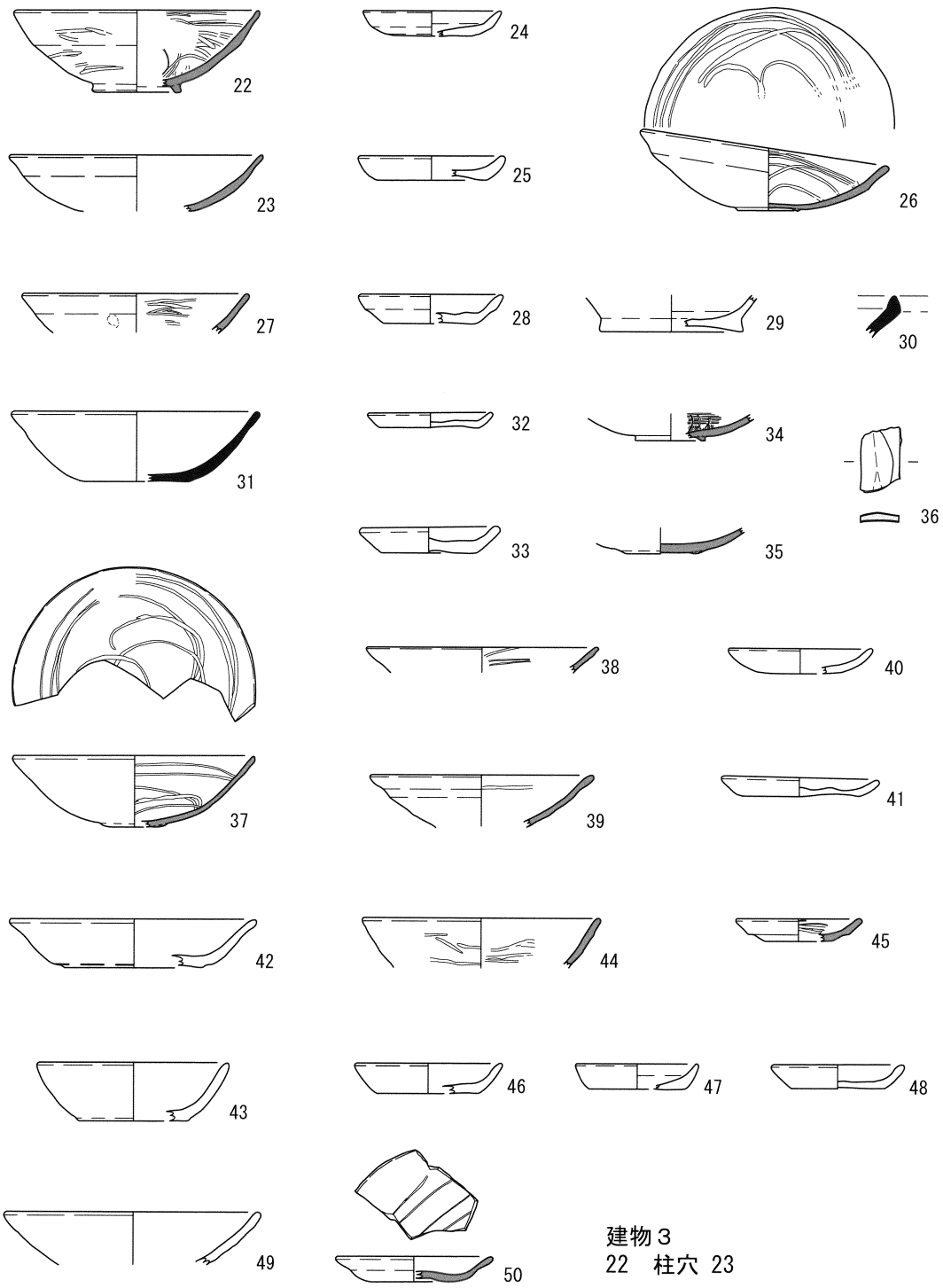


A－1地区　溝30　遺物出土状況(南西から)

C－1地区　遺構41　遺物出土状況(東から)

建物９
195
建物７
182
154
176
建物５
392
396
98
96
建物６
218
77
75
建物４
60
238
235
44
56
258
247
274
66
268
建物８
23
建物３
建物２
+37.240
-196.730
-196.720
+37.220
-196.690
+37.200
+37.190
-196.710
0
(S=1/250)
10m

C－２・３地区　平面図

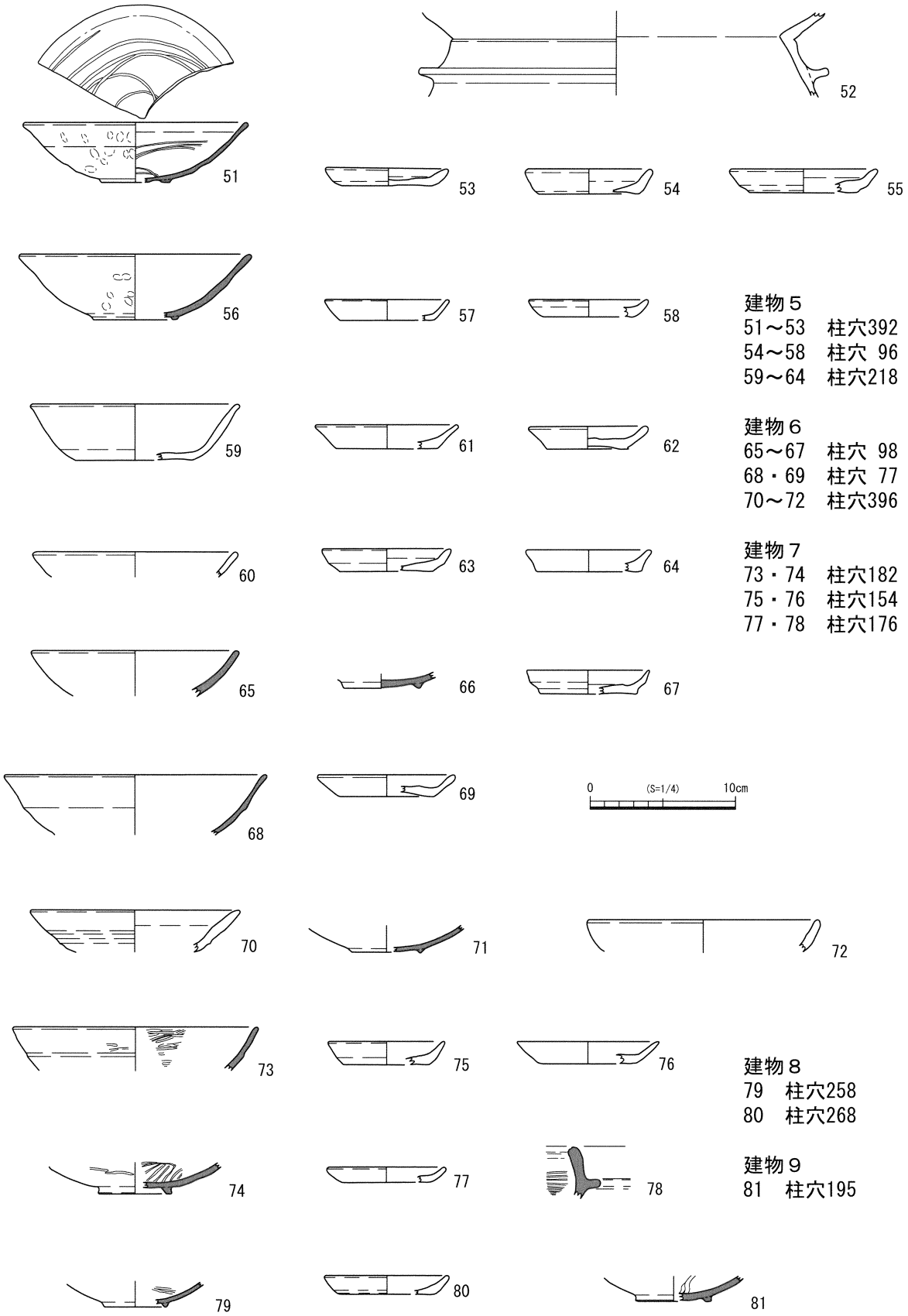


建物３
22　柱穴 23

建物４
23・24　柱穴 44　　25・26　柱穴 60
27～29　柱穴 56　　30～33　柱穴 66
34～36　柱穴238　　37～39　柱穴247
40・41　柱穴 75　　42～48　柱穴274
49・50　柱穴235

0　(S=1/4)　10cm

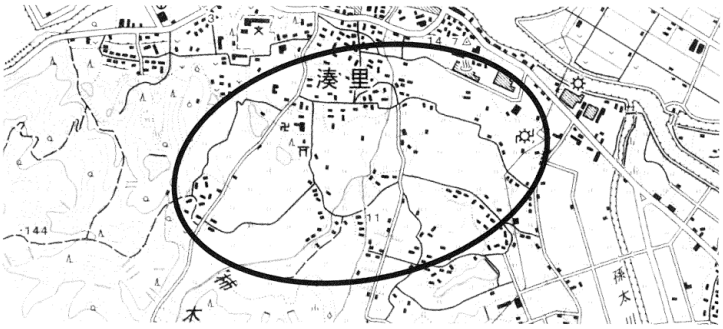
C－2・3地区　建物3・4　出土遺物



Ｃ－２・３地区　建物５～９　出土遺物

4　里原田遺跡　－１次調査－・平石遺跡　－２次調査－・カマス遺跡　－１次調査－

所 在 地　　湊里・湊
事 業 名　　経営体育成基盤整備事業
担 当 者　　定松佳重・的崎薫
種　　別　　確認調査
調査期間　　平成21年9月1日～9日
　　10月19日～11月6日
調査面積　　500㎡（125ヶ所）



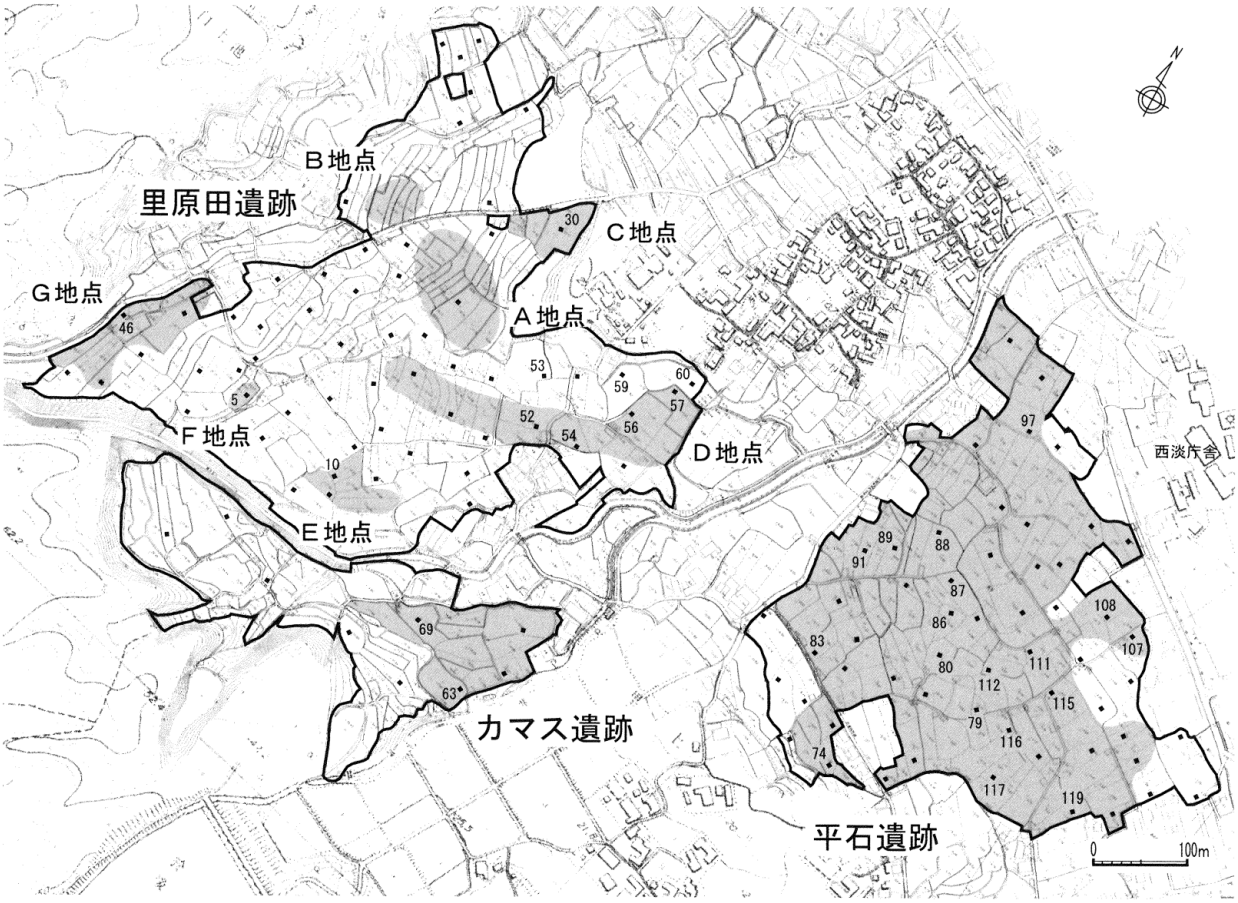
調査の位置

1　調査内容

本調査対象地は淡路島最大の平野である三原平野が播磨灘に面し、大日川と三原川が合流する左岸、標高2.2～29.4mを測る田園地帯に位置する。周辺には山の口古墳や式内社である湊口神社、叶堂城跡（室町時代）、後山遺跡（弥生・平安・室町時代）、湊城跡（室町時代）等遺跡が多く立地する。

以下、主要な調査区の概要を述べる。

№5　耕作土直下で土坑を検出した。調査区外に続くため全体の規模は不明だが、直径約90cm、深さ約60cmを測る。時期判定不可能な土師器片が少量出土した。４層は柱痕と考えられるが、性格は不明である。



調査区設定図

No.10　包含層から製塩土器（脚台Ⅲ式・古墳時代）が多量に出土した。周辺の調査区からは古墳時代の遺構・遺物は確認できていない。

No.30　西ノ池と谷田池に挟まれた調査区である。幅約45cm、深さ約20cmの溝を検出した。溝から遺物が出土しておらず、時代は不明である。

No.46　５～７層をベースに小穴が、14層をベースに大型の柱穴が掘り込まれる。大型柱穴には明瞭な柱痕がみられた。遺物は１点のみであるため明確な時期は不明であるが、中世頃の可能性が高い。

No.52　土坑を６基確認した。遺構から遺物の出土はない。

No.56　土坑を５基確認した。土坑１からは土師器皿が４点出土した。平安時代と思われる。

No.54・56・57・59　包含層より縄目叩きが施された須恵質平瓦が出土した。

No.59・60　窯壁と思われる須恵質の土塊が出土し、近辺に律令期の瓦窯があった可能性が考えられる。

No.63　５層上部が熱を受けて赤変しており、土器が密集して出土した。平安時代と思われる。遺構は未確認である。

No.74　地山である黄色系粘質土をベースに遺構が掘り込まれる。遺構から遺物は出土していないが、包含層からは土師器や須恵器・瓦器などが多く出土している。

No.79　地山をベースに溝状の遺構を確認した。上層の包含層から土師器や弥生時代後期の遺物が多く出土している。今回の調査範囲の中で、弥生時代後期の遺物が出土しているのはこの調査区のみである。

No.83　地山である黄色系粘質土をベースに大きな溝の肩部を確認した。溝は東西方向に走り、埋土上層には律令期の土師器と須恵器が多く含まれている。

No.86　地山をベースに小穴を確認した。中層の包含層からは多くの須恵器・土師器の他に有溝土錘が出土した。

No.88　上層の包含層には大量の律令期の土器が含まれ、製塩土器や竈片を確認した。下層からは弥生土器や凹基式石鏃が出土している。

No.89　微高地上に位置する。５層には多くの弥生土器が含まれる。９層上面で遺構を検出したが、８層の黒褐色粘質土から掘り込まれている。遺構埋土と酷似しているため、８層上面での検出は細心の注意を要する。遺構からは弥生土器が出土している。

No.91　微高地上に位置する。遺構面を２面確認した。第１遺構面は７層上面から中世の遺構が掘り込まれる。遺構から土師器や瓦器が出土している。第２遺構面では15層をベースにして溝状の遺構を確認した。遺構からは弥生時代前～中期の土器が大量に出土した。また７～９層にも大量の土器が含まれている。８層からは古代末～中世初頭の軒丸瓦が出土している。この瓦は内区に蓮華文、外区に唐草文を持つ讃岐系の軒丸瓦と考えられる。西隣の圃場が「寺内（てらうち）」という小字であり、周辺に寺が建立されていた可能性が考えられる。

No.108　耕作土直下の包含層より多量の土師器・須恵器・製塩土器（丸底Ⅲ・Ⅳ式）が出土した。東西方向の幅約80cm、深さ約60cmの溝を確認し、少量の土師器や製塩土器片が出土した。

No.112　深さ約60cmの落ちを検出した。南側の肩部しか検出できていないが、溝の可能性が考えられる。落ちの埋土上部より多量の土師器片が出土し、内黒の黒色土器を含む。

No.116　北東～南西方向の幅約80cm、深さ30cmの溝を検出した。包含層より土師器・須恵器・製塩土器（丸底Ⅳ式）・サヌカイトの石核や剥片が多く出土した。

No.117　土坑を12基検出し、土坑１・５より瓦器埦が出土した。

2　まとめ

調査の結果、広範囲で弥生時代～中世の遺構・遺物を確認し、それぞれ里原田遺跡・カマス遺跡・平石遺跡の３遺跡に分かれる。

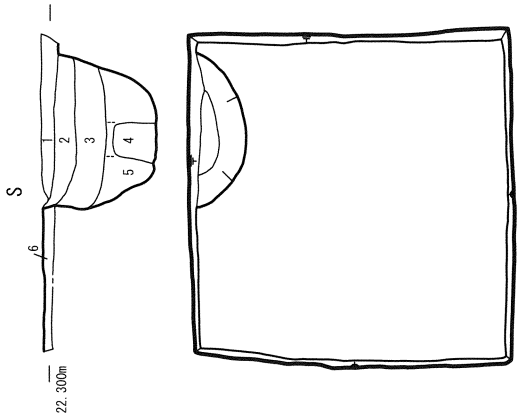
里原田遺跡はＡ～Ｇ地点の７ケ所に分かれる。Ａ地点は既に遺跡登録されている箇所である。Ｂ地点は平成６年度に行った確認調査で池ノ上遺跡として登録していたが、今回の調査で里原田遺跡に統合し、名称変更する。前回の確認調査では谷筋に当たる調査区より遺物が出土していたことから、北西にある尾根上に遺構が埋蔵されていると考えていた。今回尾根上に設定した調査区では遺構は確認できず、田造成時に大きく削られているようである。Ｃ地点は時代不明の溝を確認した。Ｄ地点は平安時代の遺構があり、出土遺物から周辺に瓦窯が営まれていた可能性が考えられる。Ｅ地点は遺構の確認はできなかったが、古墳時代の製塩土器（脚台Ⅲ式）のみが大量に出土した。時期は異なるが、南に立地する後山遺跡でも同様に製塩土器（丸底Ⅳ式・平安期）のみが多量に出土しており、海岸部よりやや入った丘陵上で製塩土器のみ出土するのは分業を示唆しているのか、類例の増加を待ちたいと思う。Ｆ・Ｇ地点は柱穴と思われる大型土坑を確認し、中世の居館などの存在が考えられる。

カマス遺跡は明確な生活遺構は確認できなかったが、熱を受けて赤変した面と小片化した土器片が出土しており、周辺に中世遺構の埋蔵の可能性が高い。

平石遺跡は今回の調査で弥生～中世の遺構・遺物を包蔵する広範囲の遺跡となった。北側にあるショッピングセンター建設に伴う確認調査では、施設と駐車場の間を走る道路を境に施設側は三原川の氾濫原、駐車場側は微高地と後背湿地となっていた。今回は標高５ｍを境に後背湿地と遺構が立地する丘陵となる。丘陵上の№89・91では弥生時代の遺構を確認した。№117からは多くの土坑を検出し、12世紀半ばと思われる。後背湿地では平安～中世の遺物が出土する。谷筋にあたる№80・107・108・111より製塩土器（丸底Ⅲ・Ⅳ式）が多量に出土した。

”湊”は淡路国の国津と考えられている重要な地域であり、官衙的性格を帯びた遺跡が包蔵されている可能性がある。調査対象外であるが平石遺跡南部に張り出しが認められ、字名（居屋敷・土井・前田）から中世居館の存在を推定でき、官衙的役割を担っていた可能性も考えられる。

（定松・的崎）

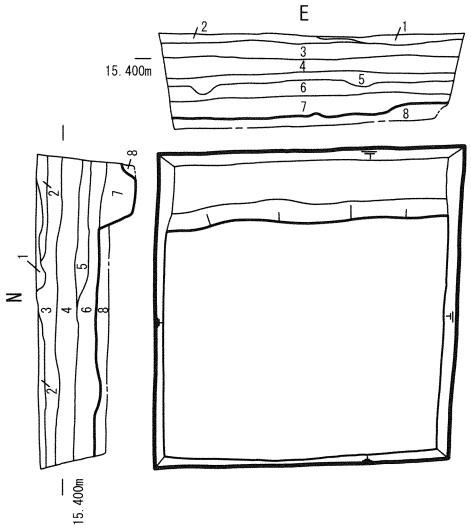


No. 5

1　10YR5/4にぶい黄褐色粘質土
2　10YR6/2灰黄褐色粘質土（Mn含む）
3　10YR4/3にぶい黄褐色粘質土
4　10YR6/2灰黄褐色＋7.5YR4/6褐色シルト質土
5　7.5YR4/6褐色＋10YR6/2灰黄褐色シルト質土
6　10YR5/8黄褐色＋10YR8/2灰白色粘質土（Mn含む）

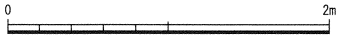
0　2m

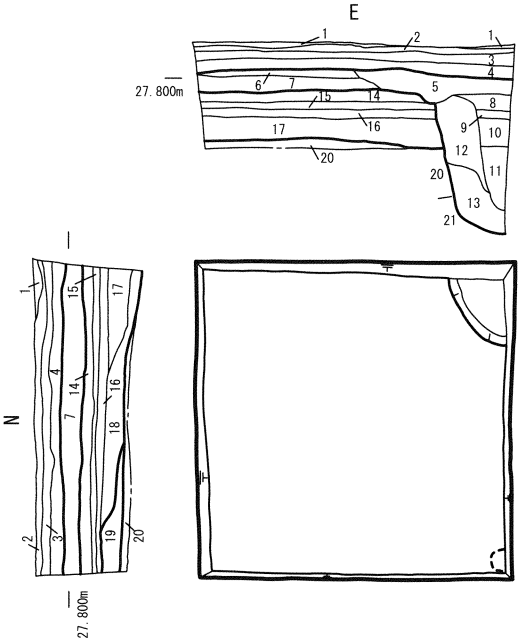
平面・層序図１



No. 30

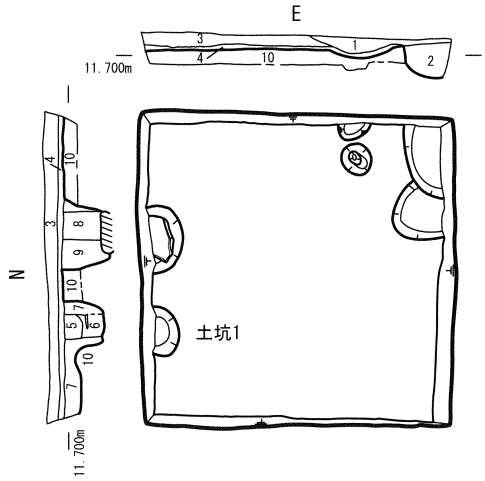
1　耕作土
2　2.5Y6/3にぶい黄色粘質土（Fe沈着）
3　10YR5/6黄褐色粘質土（遺物含む）
4　10YR5/7黄褐色粘質シルト（遺物含む）
5　10YR5/8黄褐色粘質シルト（Mn・遺物含む）
6　2.5Y6/3にぶい黄色粘質シルト（Mn多く・遺物含む）
7　2.5Y5.5/3黄褐色粘質シルト（Mn多く含む）
8　2.5Y7/4礫混浅黄色粘土（φ10cm以下腐り礫多く含む）





No. 46

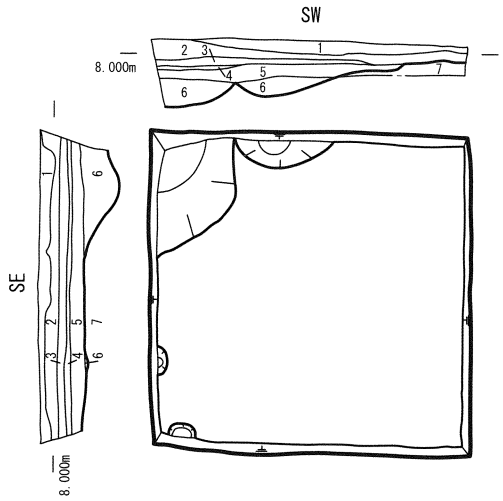
1　耕作土
2　2.5Y5/2暗灰黄色粘砂質土（Fe沈着）
3　10YR5/6黄褐色粘質土
4　10YR4.5/6褐色粘土＋10YR6/2灰黄褐色粘質土（遺物含む）
5　10YR4/6褐色粘土＋2.5Y5/2.5暗灰黄色粘質土
6　10YR5/6黄褐色粘質土
7　10YR5.5/3.5にぶい黄褐色粘質土
8　６層に10YR4/2灰黄褐色シルトと10YR5/6褐色粘土ブロックわずかに含む
9　10YR5.5/2.5灰黄褐色粘土
10　10YR5/4にぶい黄褐色粘土に2.5Y7/2灰黄色粘土ブロックわずかに含む
11　10YR5/3.5にぶい黄褐色粘質粗砂＋2.5Y7/4浅黄色シルト質粘土
　　＋10YR3.5/3暗褐色粘質粗砂（Mn・遺物含む）
12　10YR5/3にぶい黄褐色粘土
13　2.5Y5/1黄褐色シルト質粘土
14　10YR5/4にぶい黄褐色粘土
15　10YR4.5/4褐色粘砂質土
16　10YR5/3にぶい黄褐色粘質細砂（Mn含む）
17　10YR5/2.5灰黄褐色粘質土（Mn含む）
18　10YR4/3にぶい黄褐色粘砂質土（Mn多く・遺物含む）
19　10YR5/2灰黄褐色粘砂質土（Mn含む）
20　2.5Y6/3にぶい黄色粘質シルト（Mn含む）
21　10YR6/4にぶい黄橙色粘土（Mn含む）



No. 56

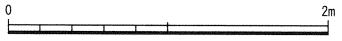
1　2.5Y6/2灰黄色細砂質土（３層２次堆積・遺物含む）
2　2.5Y5/2暗灰黄色細砂質土
　　（10層小ブロックわずかに・遺物含む）
3　2.5Y5/3黄褐色粘砂質土
4　2.5Y5/6黄褐色シルト質土
5　2.5Y4/3オリーブ褐色砂質土
　　（10層小ブロックまばらに含む）
6　2.5Y3/2黒褐色シルト質土
7　2.5Y4/2暗灰黄色シルト質土
8　2.5Y4/2暗灰黄色シルト質土
　　（10層小ブロックわずかに含む）
9　2.5Y4/3オリーブ褐色シルト質土
　　（10層小ブロックまばらに含む）
10　2.5Y4/4オリーブ褐色褐斑混入粘質土

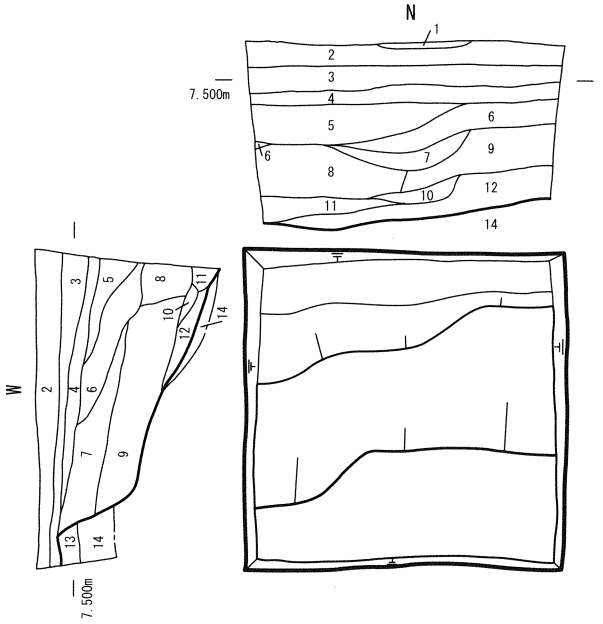
平面・層序図２



No. 74

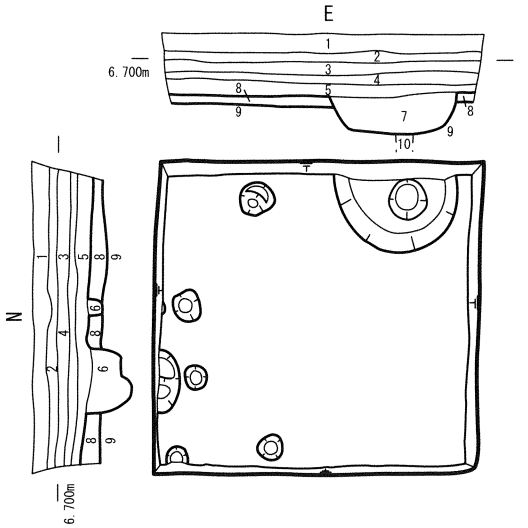
1　10YR6/2灰黄褐色細砂質土（Fe沈着）
2　10YR5/4にぶい黄褐色粘砂質土（遺物含む）
3　2.5Y5/3黄褐色粘砂質土（Mn・遺物含む）
4　10YR5/4黄褐色粘質土（Mn含む）
5　10YR5/2.5灰黄褐色粘砂質土（Mn・遺物含む）
6　10YR5/3にぶい黄褐色粘砂質土（Mn含む）
7　2.5Y7/2灰黄色粘質土＋10YR5/6黄褐色粘質土
（Mn多く含む）





No. 83

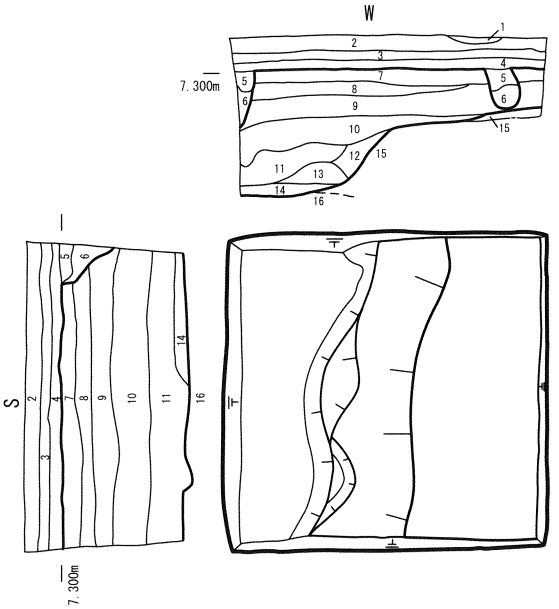
1　耕作土
2　10YR5/6黄褐色粘砂質土（遺物含む）
3　2.5Y5.5/3黄褐色粘砂質土（Mn・遺物含む）
4　2.5Y4/2暗灰黄色粘砂質土（Mn・遺物含む）
5　2.5Y4/2礫混暗灰黄色粘質土
（Mn・φ３cm以下礫・腐り礫含む）
6　10YR3/2黒褐色粘質土
（Mn・遺物・φ５cm以下礫・腐り礫まばらに含む）
7　10YR5/1.5灰黄褐色粘質シルト（遺物含む）
8　2.5Y4/4礫混オリーブ褐色粘土
（遺物・φ５cm以下礫・腐り礫多く含む）
9　10YR4/2礫混灰黄褐色粘質土
（Mn・φ３cm以下腐り礫含む）
10　10YR4.5/2灰黄褐色細砂
11　10YR4/2礫混灰黄褐色細砂（φ５cm以下礫・腐り礫多く含む）
12　10YR5/2.5灰黄褐色粘質細砂
13　2.5Y5/3黄褐色粘質土（Mn含む）
14　2.5Y5/2暗灰黄色粘質土（Mn含む、湧水）



No. 89

1　10YR5.5/6黄褐色極細砂質土（遺物含む）
2　10YR5/6黄褐色粘極細砂質土（遺物含む）
3　2.5Y5/3.5黄褐色極細砂質土（Mnまばらに・遺物含む）
4　2.5Y5/3黄褐色極細砂質土（Mn・遺物含む）
5　10YR3/3暗褐色粘砂質土（Mn・遺物多く含む）
6　10YR2/2黒褐色粘質土（Mn・遺物含む）
7　10YR2.5/2黒褐色粘砂質土（Mn・遺物含む）
8　10YR3/2黒褐色粘砂質土（Mn・遺物含む）
9　2.5Y4.5/5オリーブ褐色粘質土（Mn含む）
10　2.5Y3/3礫混暗オリーブ褐色粘砂質土
（φ15cm以下礫・腐り礫多く含む）

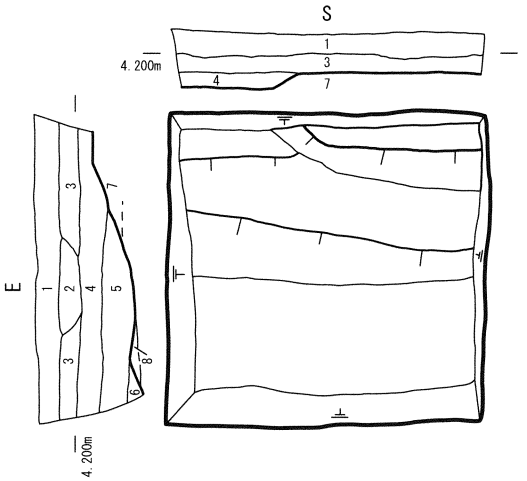
平面・層序図３



No. 91

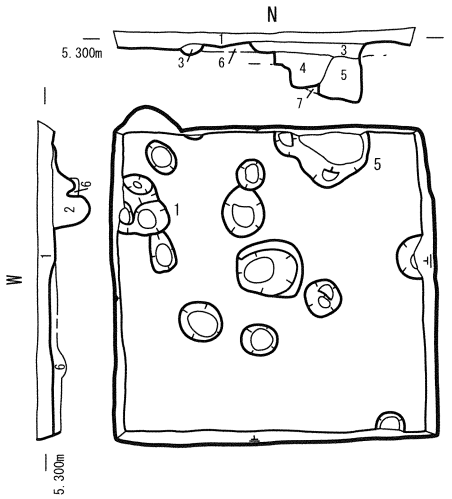
1　耕作土（遺物含む）
2　2.5Y5/4黄褐色極細砂質土（遺物含む）
3　2.5Y5/3黄褐色極細砂質土（Mn含む）
4　2.5Y5/3黄褐色粘極細砂質土（遺物含む）
5　2.5Y4/2暗灰黄色極細砂質土（Mn・遺物含む）
6　５層＋８層（遺物含む）
7　10YR3/2黒褐色粘砂質土（Mn・遺物含む）
8　10YR2.5/2褐色粘砂質土（Mn・遺物多く含む）
9　10YR2/2黒褐色粘砂質土
　　（Mn・遺物多く・φ３cm以下礫まばらに含む）
10　10YR2/1.5黒褐色粘砂質土
　　（Mn・遺物多く・φ５cm以下礫まばらに含む）
11　10YR3/2黒褐色粘質土（Mn・遺物多く含む）
12　16層＋10YR2.5/1.5黒褐色粘質土（遺物含む）
13　10YR2/2黒褐色粘質土（Mn・遺物含む）
14　10YR3.5/1礫混黒褐色粘質土
　　（遺物多く・φ10cm以下礫・腐り礫含む）
15　10YR5/3にぶい黄褐色粘砂質土（Mn含む）
16　10YR5/2礫混灰黄褐色粘粗砂質土
　　（φ５cm以下礫・腐り礫含む）

0　2m



No. 112

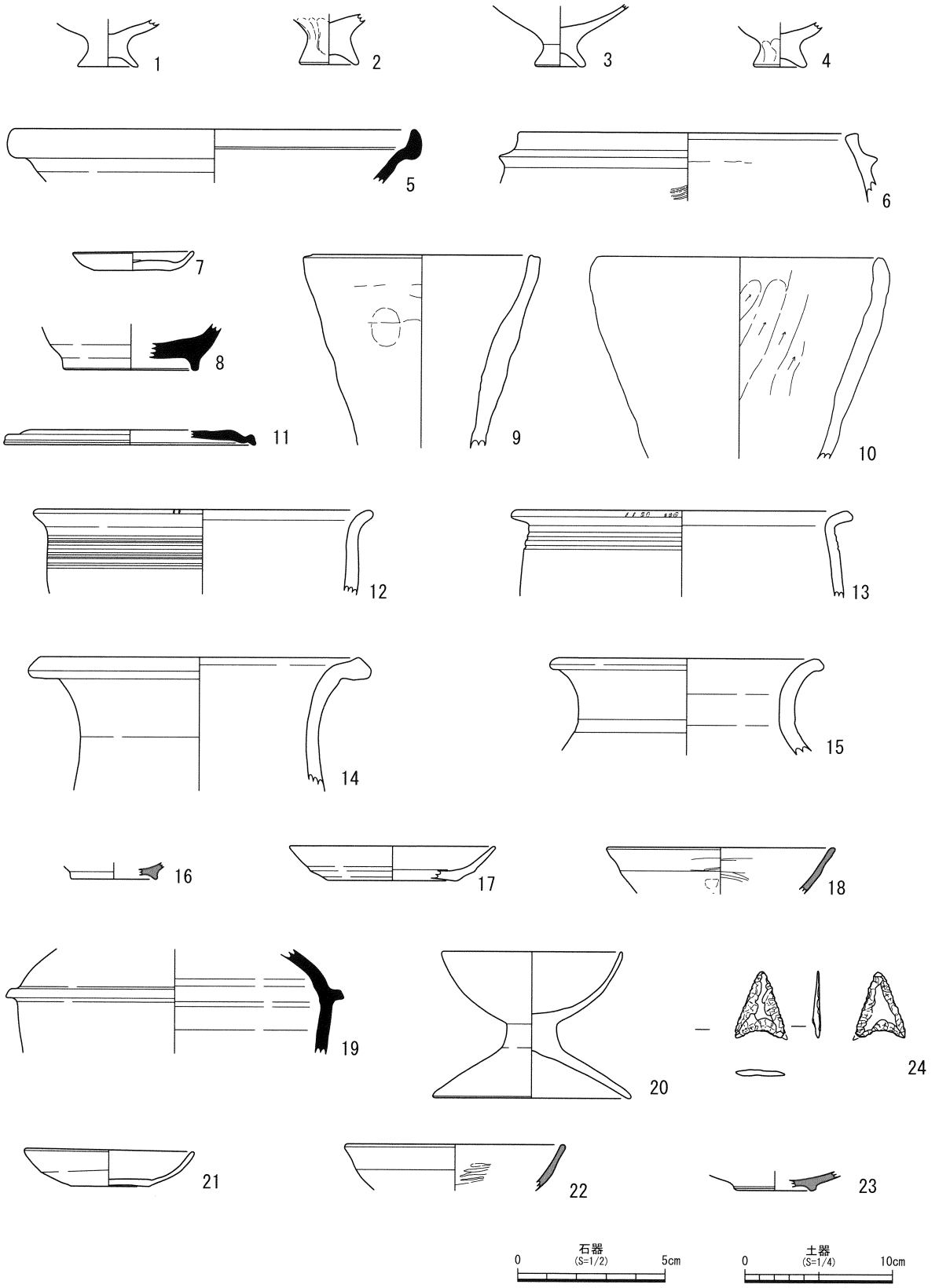
1　2.5Y5/3黄褐色細砂質土（遺物含む）
2　2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト質細砂（遺物含む）
3　2.5Y3/1黒褐色シルト質土（遺物含む）
4　10YR3/1黒褐色シルト質土（遺物含む）
5　10YR2/2黒褐色シルト（遺物含む）
6　2.5Y2/1黒色シルト
7　10YR3/1礫混黒褐色粘質土
　　（φ１～15cm礫まばらに含む）
8　10YR4/2灰黄褐色粘質土



No. 117

1　10YR5/3にぶい黄褐色細砂質土
2　10YR4/2灰黄褐色褐斑混入砂質土
3　10YR3/2黒褐色褐斑混入シルト質土
　　（６層小ブロックまばらに含む）
4　10YR2/2黒褐色シルト質土
　　（６層小ブロックわずかに含む）
5　10YR3/2黒褐色シルト質土
　　（６層小ブロックまばらに含む）
6　2.5Y4/4オリーブ褐色褐斑混入土
7　10YR5/8黄褐色粘質土

平面・層序図４

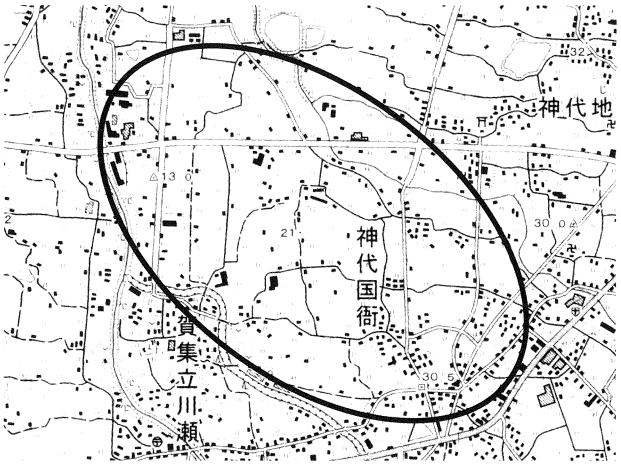


1～4 No.10　5 No.30　6 No.53　7 No.56　8 No.69　9･10 No.80　11 No.87　12～15 No.91
16～18 No.97　19 No.112　20 No.115　21･22 No.117　23 No.119　24 No.88

出土遺物

5　国衙廃寺跡（こくがはいじ）

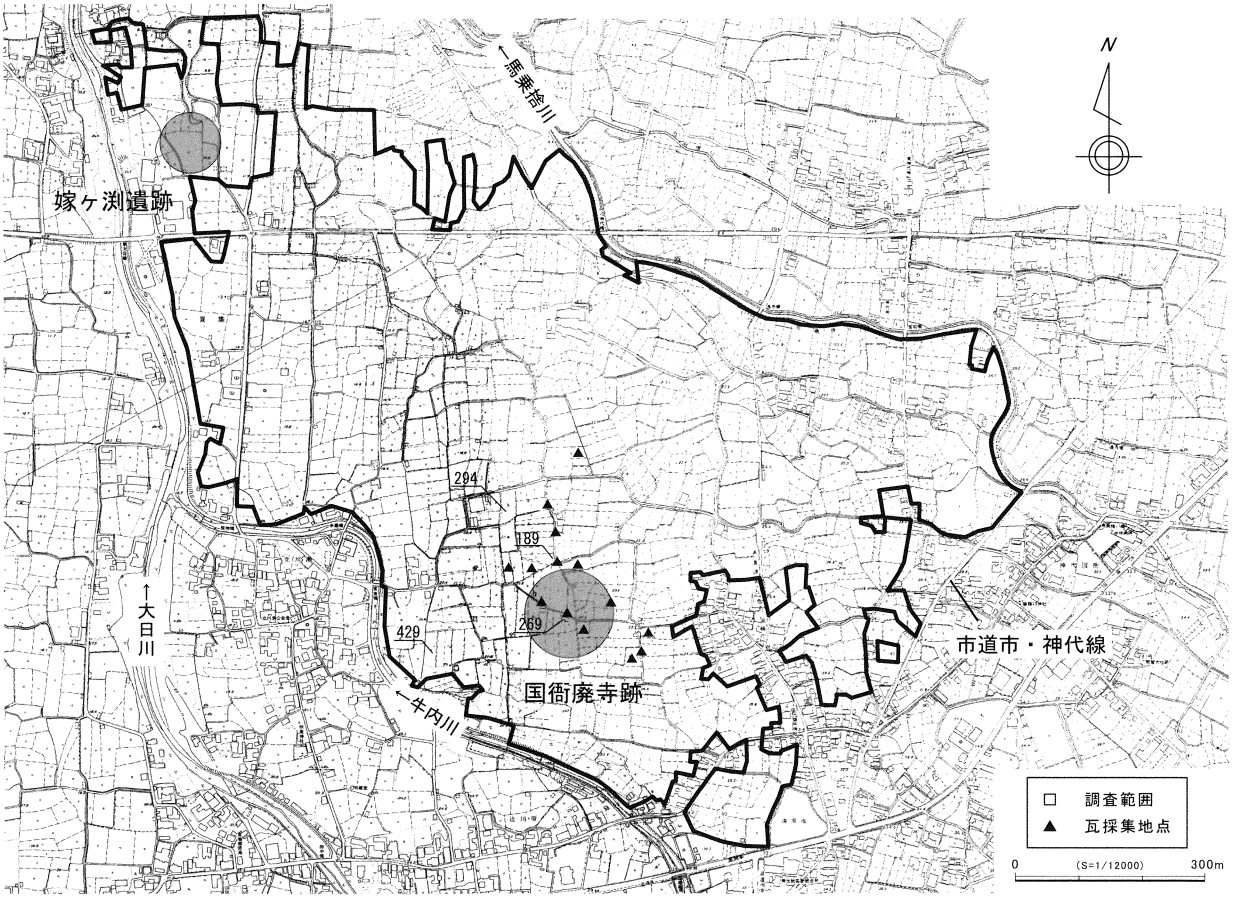
所 在 地　　神代国衙字天王外
事 業 名　　経営体育成基盤整備事業
担 当 者　　坂口弘貢
種　　別　　分布調査
調査期間　　平成22年１月12日～２月19日
調査面積　　約90ha



調査の位置

1　調査内容

本調査は、神代国衙地区～賀集立川瀬地区で計画されている県営圃場整備事業に伴う分布調査である。調査地は、三原平野中央南寄りの南東から北西に緩やかに傾斜する水田からなり、東を市道市・神代線、西を大日川、南を牛内川、北を馬乗捨川に挟まれた範囲で、北西部には古代官衙遺跡の嫁ヶ渕遺跡が分布する。調査地の現状は、大半が野菜作付け中の農地であることから、畝の谷部



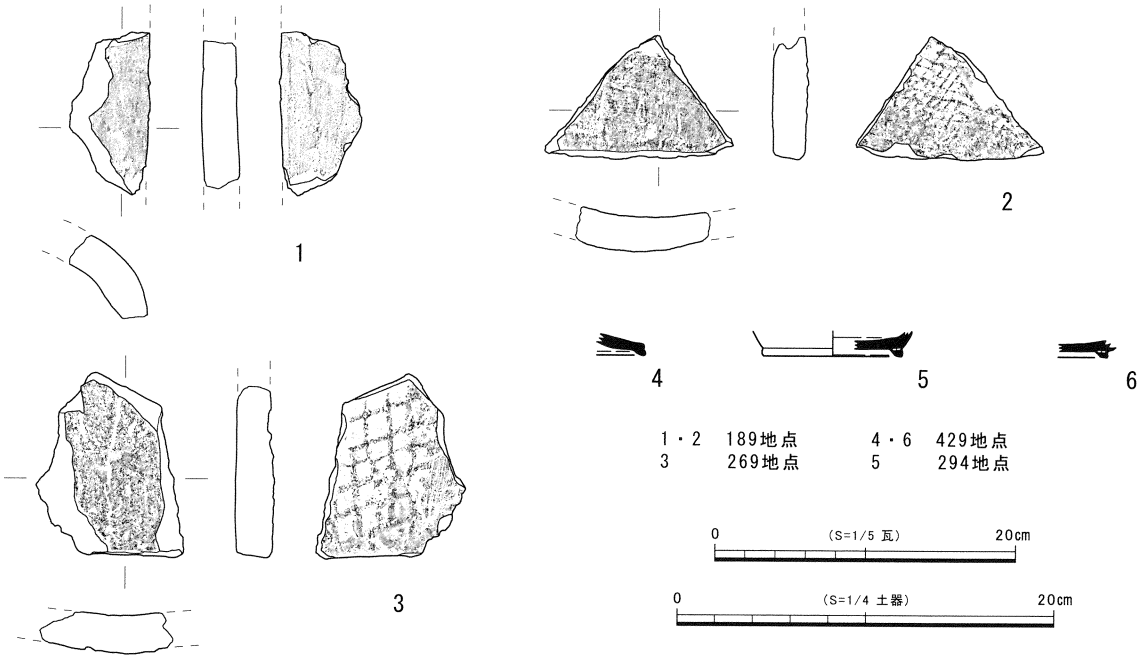
調査地詳細図

分を踏査して遺物の散布状況を確認する方法で進めていった。

調査の結果、ほぼ調査地全体で遺物の散布が確認できた。採集遺物には土師器・須恵器・陶磁器・瓦・サヌカイトなどがあり、牛内川から大日川沿いの南西部に多く、馬乗捨川沿いの北東部は少ない傾向にある。また、これまで岡本稔氏が指摘していた（「淡路古瓦集成」『淡路地方史研究会会誌』昭和39年）国衙廃寺跡周辺で瓦が散布することが再確認できたことが大きな成果といえよう。瓦の採集量は多くないものの、調査地南寄りの約200～250mの範囲を中心に散布することが分かった（▲地点）。軒瓦は認められず、須恵質のものが主体となる。平瓦の凸面が無文や小さな斜格子のものが幾つか認められる。この凸面に小さな斜格子が施された平瓦は、八木地域にある淡路国分寺跡や国分尼寺跡でも出土しており注意される。

2　まとめ

本調査により、ほぼ調査地全域に遺物が散布することが確認できた。特に国衙廃寺跡周辺では、凸面に国分寺跡や国分尼寺跡と同じ調整が施された瓦が採集できており、周辺に奈良～平安時代頃の瓦を伴う遺跡が存在する可能性が非常に高い。　（坂口）



採集遺物

調査地遠景（南より）

国衙廃寺跡近景（北東より）

2013年３月29日発行

南あわじ市埋蔵文化財調査年報Ⅵ

2009年度　埋蔵文化財調査

発行　南あわじ市教育委員会
編集　南あわじ市埋蔵文化財調査事務所
〒656-0455　兵庫県南あわじ市神代国衙1100
TEL　0799-42-3849
印刷　室印刷
〒656-0511　兵庫県南あわじ市賀集八幡南246
TEL　0799-52-1376